

THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION

地域の伝統文化

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団

地域の伝統文化 第33号

令和7年10月1日発行

発行：明治安田クオリティオブライフ文化財団
編集：専務理事 三浦 達也
住所：〒163-0633
東京都新宿区西新宿1-25-1
TEL: 03-3349-6194
FAX: 03-3345-6388
<https://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp>



島根県益田市「三谷神楽社中」(令和七年度助成先)の『木彫りの神面 演目：八幡』

於：島根県芸術文化センター グラントワ 神楽共演大会

令和八年度
「地域の伝統文化の継承・発展活動」
に対する費用助成希望受付開始

公益財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団では、平成三年六月に財団を設立以来、地域に伝承されてきた「地域の伝統文化の継承・発展活動」とくに後継者の育成に必要な諸活動に対する助成を行なっています。令和八年度で三六回目をむかえます。

これまでに行なった助成は、累計一五・一八件となり、その地域も全国の都道府県に及んでいます。

令和八年度も以下の内容により公募を行ないます。

詳細につきましては、各都道府県の教育委員会または知事部局の文化関係所管課に送付しています「令和八年度助成申込要領」をご覧ください。なお、申し込みください。

なお、申込要領の詳細は、財団のホームページにも掲載しています。

『申込要領の概要』

【助成対象】

「地域の民俗芸能」「地域の民俗技術」の継承、とくに後継者育成のための諸活動に努力をしている団体または個人

【助成の条件】

令和八年度(令和八年四月から令和九年三月まで)に後継者育成を目的とする諸費用(道具整備費、製作材料費、育成研修費、記録保存費用など)の支出を予定していること。その支出を賄うために、外部からの資金協力が緊急不可欠であること

【申込手続】

一、提出書類

「申込書」(所定用紙)
「推薦書」(所定用紙)

「活動状況がわかる写真」
「直近の収支決算書(写)」
「参考資料」等

※一部インターネットでも手続きが可能です。詳細は財団ホームページをご覧ください。

二、申込みの際、「推薦書」に各都道府県の文化関係所管課の推薦が必要

【手続日程】

一、申込期限
令和七年十二月三十一日(水)

※当日消印まで有効

二、結果発表
令和八年二月下旬(予定)

【選考方法手続】

提出書類に基づき当財団の選考委員会で厳正に審査し、理事会に答申して決定

【助成金額】

一、民俗芸能への助成は、一件につき七〇万円が限度
二、民俗技術への助成は、一件につき四〇万円が限度

【伝統文化分野選考委員】

委員長 星野 紘

(全日本郷土芸能協会理事
長・日本民俗芸能協会会長)

委員 神野 善治

(武蔵野美術大学名誉教授)

委員 齊藤 裕嗣

(國學院大学兼任講師)

委員 田中 宣一

(成城大学名誉教授)

委員 茂木 栄

(國學院大学名誉教授)

委員 山内 彰

(当財団元事務局長)

(敬称略)

Ⅱ 特別寄稿Ⅱ

地域伝統文化の価値 ー「コミュニティと命の甦り」

(國學院大學 名誉教授)
茂 木 栄
(当財団伝統文化分野選考委員)

茂木栄先生略歴



昭和二十六年（一九五二）生まれ
昭和四十九年三月成蹊大学文学部卒業、昭和五十六年三月成城大学大学院文学研究科日本常民文化専攻 博士課程満期退学、昭和五十六年四月日本学術振興会奨励研究員、昭和六十二年四月國學院大學日本文化研究所専任講師、平成二年國學院大學日本文化研究所助教授 國學院大學神道文化学部助教授・教授を経て、現在國學院大學名誉教授 民俗芸能学会代表理事、神道宗教学会理事、社叢学会理事。主な著書に『まつり伝承論』（大明堂）、『大和の伝承文化』上・下（共著・名著出版）、『祭礼の史的類型に関する研究』（共著・文部省科学研究費報告）、『日本の神々の事典』（共著監修・学習研究社）などがある。祭・芸能記録映像多数制作。

はじめに

数日前（七月二十九日）、ロシアのカムチャッカ半島沖で発生したマグニチュード8.8の大地震で日本列島に津波警報が発令され、乗っていた電車から降ろされてしまった。公共施設に避難した人達も多くいたようである。深夜近くになって帰宅することができたが、東日本大震災の時の絶望的な気持ちを思い出してしまった。

猛烈な暑さとともに夕方になると驟雨が通り過ぎてゆく。もうすぐ、御魂の帰ってくる季節がやってくる。

先祖の御魂が帰ってくるお盆

東日本大震災直後の夏。大津波が東北地方太平洋沿岸を襲い、流されて亡くなった多くの人たちの新盆が営まれた。平成二十三年八月、果たして新盆の供養ができるのかどうか危ぶまれていたのである。

大震災後、いち早く社叢学会が組織したプロジェクトに筆者も加わり、被災地域の鎮守の森の被害状況を調査し、専門家の指示に従い土壌改良剤の散布を行っていた。後に良く知られることになるのであるが、不思議なほど神社は津波に流されてはいなかった。仙台平野の沿岸部を除くほとんどの地域で、神社の社

殿直前で津波は止まっていた。古くからの言い伝え（「何かあったらお宮に逃げろ」）に従って神社に逃げた地域の人たちで命を失った事例を見いだせなかった（社叢学会で被災の可能性のある神社に実施したアンケート結果による）。神社が地域に残ったことが、祭・芸能を復活させ、人を呼び戻し、地域の復興に大きく貢献することになったのである。

という地域手作りの行事であった。また、岩手県の太平洋沿岸各地では「三陸海の盆」と称して、八月十一日の合同大祭から十六日の送り火まで、ボランティアの力を借りて実施されたという（第一回「三陸海の盆」実施要項（案より））。

大震災後の御魂供養の行事「海の盆」の実施

宮城県松島では「松島 流灯会 海の盆」と命名して、これまでの花火大会に代えて、遊覧船からの灯籠流しが行なわれた。筆者もこれに参加し、灯籠流しをさせていただいた。大震災で亡くなった人々の供養と新しい夏祭を創造しよう



〔松島流灯会〕

1. 開催の趣旨 3月11日に発生した東日本大震災により犠牲になった人々を永遠に記憶し、風化させず、被災地と支援地、三陸が一体となつて被災者を供養するため、更に、各地の郷土芸能の復活・郷土の復活を願ひ「三陸海の盆」を開催いたします。

2. 主催 「三陸海の盆」実行委員会
3. 共催 岩手県沿岸広域振興局、宮古市、大槌町、山田町、釜石市、大船渡市、陸前高田市、気仙沼市、南三陸町、遠野市、大槌町ボランティアアセンタ、NPO 遠野まごころネット
初めての合同大祭は、平成二十三年八月十一日、津波で大きな被害を受けた岩手県大槌町の「まごころ広場うすざわ」で行なわれた。この時、夜まで演じられた郷土芸能は、唐丹桜舞太鼓（釜石市）・釜石虎舞（釜石市）（陸前高田市）連合・水戸辺鹿踊り（南三陸町）・大漁唄い込み（気仙沼市）・平倉神楽（遠野市）・白澤鹿子踊（大槌町）・八木節（山田町）・黒森神楽（宮古市）・城山虎舞（大槌町）などであった（芸能人の特別ゲストは省略）。

大槌町の歴史と祭・芸能風土

大槌町は多くの郷土芸能を伝承してきた地域であった。第一回目の会場となった大槌町白澤地区には鹿子（しし）踊が伝承されている。

大槌町教育委員会から依頼され、芸能

に公刊した。其中に「変若水」と言ふ万葉の用語に關した解釈を書いている。「万葉に月詠（ツキヨミ）の持（モ）たる変若水（ヲチミヅ）と言ふ語がある」と。それは万葉集卷十三の三二四五番の歌のことである。

「天橋も長くもがも高山も高くもがも月夜見の持てるをち水い取り来て君に奉りてをち得てしかも」

反歌「天なるや月日のごとく我が思へる君が日に異に老ゆらく惜しも」(三二四六番)

という歌が見られ、年老いていく君を嘆いて、どこにかして月夜見が持つという「をち水」を手に入れて、奉り、若返らせたいとの願いを詠んでいると解釈した。

この「をち水」について折口は、

ねふすきいさんはかう言うた。宮古方言しぢゅんー日本式に言ふと、しでるーは、若返ると言ふのが、其正しい用語例である。沖縄諸島の真の初春に當る清明節の朝汲んだ水は、神聖視せられてゐる。ある地方では、節（シチ）の若水（ワカミヅ）と言ひ、ある処では、節（シチ）のしぢ水」と称へてゐる。言ふまでもなく、日本の正月の若水だ。

〔若水の話〕『古代研究』第一部民俗学篇第一、大岡山書店、昭和四年刊。折口が言うねふすきいさんとはニコライ・ネフスキーのことで、『月と不死』などをものした東洋言語学者・民俗学者である。帰国してレニングラード大学（旧ペテルブルク大学）の教授となるが、昭和十二年十月四日、日本のスパイとの疑いをかけられ、日本人の妻とともに逮捕され、翌月レニングラードにおいて「国家叛逆罪」で銃殺刑に処された異能の言語学者であった。

先の折口の文章は、大正十年三月、折

口信夫郎で開催された沖縄の信仰に關する研究会の席上でのエピソードである。

地域の芸能に見られる湯水

変若水とは若返りの水という意味とともに、死からの再生を可能にする水とも言えると折口は述べている。

折口が『古代研究』執筆のために大正終りから昭和にかけて、調査地としていた天龍川中流域の山間部に伝承されている霜月神楽の多くは、湯立（ゆたて）を行なっていた。

神歌を歌い、神楽を舞い、湯立をくり返す。最後に湯離（ゆばや）しという演目があつて、観客達に熱湯を浴びせるのである。これが、若返りの湯水（若水）である。神子の儀式では、病氣平癒や健康回復の願をかけた人たちが、釜の湯を、神歌に合わせて振りかけられなが



〔遠山霜月祭 湯釜と宮天白〕

ら、身体中を湯水に浸した笹で撫でられて、神様の子として生まれ変わる。新しい命と身体を手に入れるのである。

カクレキリシタンの祭事と聖水

長崎県生月島では、「カクレキリシタンの祭にオラシヨが唱えられる。オラシヨ（Ora-shi-yo）で折祷文の意）を

唱えはじめる前に、「座揃い」といって皆が座に着く。そして「神寄せ」で、ゼウス様、イエズス様、マリア様はじめ地域の神々までをも呼び寄せる。「神寄せ」が済むと「申し上げ（申し立て）」がなされる。これから行なう行事の目的、願いをあらかじめ神様に申し上げるのである。

それから種々の意味を込めたオラシヨ（神歌）が歌われる。この形は、紛れもなく中世起源の天龍川中流域の祭と同じ構成である。カクレキリシタンの祭の始まり部分は、霜月神楽の神降ろしの構造そのものである。筆者は、生月島でダンジク様の祭とオラシヨを観察する機会を何度か得ることができた。

天龍川中流域に分布する奥三河一帯の花祭、北遠州の湯立神楽、南信濃遠山地方の霜月神楽の神降ろしも「座揃い」から始まり、場を清め、竈に火を入れてから「神名帳」で全国津々浦々の大きく高い神格の神々と地域の小祠に祀る小さな低い神々と祭場に招き降ろす。続いて「申し上げ」で来臨した神々に五穀豊穰、家内安全、無病息災他をお願いする。それから湯立と神楽が続けられるのである。

生月島山田で伝えられていた「神寄せのオラシヨ」は、イエス・キリスト、母マリア様、天国とまづ大きな神の御名を称えてから、生月・平戸島の地域に祀られているキリシタンの地域神、殉教者を祭場に降ろす。神様の神格が大きい神から小さい神へ変わって行く構成になっていた。

この神降ろしの形式は、先述したように日本の中世芸能である、霜月神楽の神降ろしの構造そのものと言ってもよい。まさに、カクレキリシタンの宿での行事の「神寄せ」で呼び降ろされる殉教者たちは、日本における地域独特の神なのである。



〔ダンジク様の祭 聖水をふりかける〕

ある。要するに、神道の神事もカクレキリシタンの祭事も神降ろしの構造と全体の儀礼構成は極めて類似している。

「おやじ様」を中心とした信仰のリーダーたちは、一月一日、聖地中江ノ島のサンジワン様脇の沢から汲みだす聖水（お水）を採取して、鶴首の小壺に貯める。祭の時には、オラシヨを歌いながら、小さな棒で壺からお水を掬い取り、神前や参加者たちに振りかける。甕りの若水を振りかけられて若返るのである。湯立神楽と共通している。外来のキリシタン信仰は、年の始めに汲み貯めた甕りの若水を、祭事に取り入れて、命の甕りを重要なモチーフとして今日まで伝承してきた。

結語

古い日本の祭・芸能が果たしてきた役割は、共同体の絆の再生と若水を浴びた人々の命の甕りを実感させるものであった。カクレキリシタンという外来の信仰でさえ、日本化し若水の甕りのモチーフが、祭事に組み込まれている不思議に海の盆が思い起こされるのである。

寄稿

時代変化に合わせた 伝統芸能の取組みの必要性

埼玉県行田市校町
長野ささら獅子舞保存会

会長 島崎 光司
(令和七年度助成先)

◇三〇〇年受け継がれてきた歴史

埼玉県の旧長野村、現在の埼玉県行田市の鎮守 久伊豆神社の大祭は、毎年九月十八日、十九日に執り行なわれ、五穀豊穡、無病息災、家内安全を祈り、ささら獅子舞が奉納されてきた。行田市史によれば一七一三年より始められたとの記録がある。また、文政六年（一八二三年）に松平下総守が桑名から忍に移動となった際、忍城の神社の再興を指導されたことが始まりともされている。三〇〇年以上、受け継がれてきた歴史ある伝統芸能である。



〔継承されてきた歴史〕

ただ、順風満帆に継承されてきたわけではない。昭和四十三年頃には二〇代のすり手もおらず、祭りでも獅子舞は見られなくなっていた。

それまで世襲制で行なっていたが、後継者不足から途絶えていた時期がある。それに心痛めた長野地区でそれまで踊ってきたすり手の方々や一桜町内の方々が立ち上がり、青年部を中心に後継者育成を行ない始め、昭和五十六年六月に長野ささら獅子舞保存会が設立された。

◇継承されてきた演目と舞台

演目は現在、四演目（笹がかり、花割り、鐘巻、弓くぐり）のみが継承されている。太刀を使った四方固め、太刀と棒使いで悪魔祓いと身を清めていた演目、おかめ、ひよつとこによるおこわぎ（風紀上よくないと言われるほど手がこんでいた）といったこれらの演目は、残念ながら継承されていない。



〔躍動する獅子たち〕

以前は、旧長野村の地域を回っていた。久伊豆神社、長久寺、我空薬師、白山神社の各境内、氏子代表の家に庭を用いた地上舞台で奉納していた。しかし、保存会設立以降、久伊豆神社、長久寺、東行田駅前、一桜公園のみでの奉納のみと

なっている。また、長野地区の文化祭で演目の披露を行なっている。

◇変えるもの・変えてはならないもの

平成二年頃、若手育成のために思い切った取組みを行なっている。それまで保存会の獅子方以外は、主に男性が中心で浴衣に半纏を着ていた。その衣装を、花持ちは巫女装束に、笛方は袴に変えた。さらに地元の小学生の女の子に花持ちを依頼。この取組みは今でも継続し、花持ちを経験した子どもが笛方に憧れ、成人してからも保存会員として活躍している。この当時、これまでの歴史を変えることは大きな決断であったと考える。



〔華やかさを加える花笠〕

その新たな取組みの姿勢は根付いている。平成十六年頃、幼少時にお祭りを体験していた男性二人の入会をきっかけに練習風景の映像を記録。それを活用し、初年度に獅子方として三つの演目に出演。また、それまで笛方は、師匠の指を親で覚えることが当たり前だった。平成二十三年にすべての楽曲を指符および譜面に起こし、映像記録としてYouTube、歴史や道具の記録としてホームページ等を活用し、いつ

でも見られる環境を整えてきた。

◇時代の変遷に合わせた思い切った取組み

それだけではない。それまで保存会のメンバーは長野地区在住、出身者に限定していた。しかし、それでは継承が難しいことから、地域に限定することなく、会員を募ることを行なってきた。平成二十七年には、獅子方、笛方を含め、四〇代のみで、すべての演目を実施できるようにになった。

ただ、二〇代、三〇代は少なく、この年代の会員を増やすことが課題である。そのための取組みの一例を紹介する。令和四年には、ものつくり大学、令和五年には、東京藝術大学と連携し、それぞれ学生一名ずつ。卒業研究として、練習より参加し、客観的な目線から活動記録に残す取組みを行なっている。

令和七年には、啓蒙活動の一環として、郷土芸能のイベントへの出演、学園祭での出演等、積極的に行なっている。また、各種SNSでの練習や祭りでの風景の発信なども同時に行っている。



〔繋がりが力となる〕

ただ、伝統芸能に参加する価値や意義は、言葉で伝えることは難しい。そのためには、気軽に獅子舞に触れ、楽器に触れる機会を多く

作る。また、獅子舞を擦る（舞うこと）や演奏することの喜び、日々の練習や道具作りなどの時間だけでなく、食卓を囲むことの楽しさを知ってもらうことが何より重要である。

◇祭りの本当の価値を問い直す

伝統芸能は地域に根差した神事の一つとして、地域の氏子のために、五穀豊穡、無病息災を願い、奉納されてきた。しかし、いつしかその祭りそのものの本来の意義・意味は薄れてきているのが、実情である。保存会発足時の言葉を紹介する。

“祖先のつくりあげた文化遺産の保存と、地域の人々の心の交流、さらには次代を担う青少年の郷土文化への啓蒙と健全育成を念ずる”



〔受け継がれてきた道具〕

この原点に帰り、もう一度、祭りとこの本質を地域の人たちへ伝え、神社からの再興することが、住む人々たちの幸につながるが、伝統芸能の継承に繋がると考えている。この度、伝統文化継承に取り組んでいる多々ある中で、当保存会へ助成金を交付いただき感謝申しあげます。引き続き行政、大学、地域の人々と連携し、次世代に繋げていく地盤をより強固にしていきたい。

寄稿

火産霊（ほむすび）神社に伝わる
福井県無形民俗文化財「馬鹿ばやし」

福井県福井市手寄町
馬鹿ばやし保存会

会長 渡邊 本爾
（令和七年度助成先）

◇火産霊神社の歴史

火産霊神社（旧秋葉神社）は福井駅東口から徒歩五分ほどの福井市手寄町に鎮座する神社です。神社の社伝によると、創祀は福井藩祖結城秀康公が遠江国秋葉神社の御分霊を城内に勧請し、慶長六年（一六〇二）当国北ノ庄城（現在の福井）に移封する時に、居城の東南端の地（福井市豊島）に移したと言われています。以後、領内唯一の防火神として崇められ、福井藩主松平家の祈願所として歴代城主の崇敬するところでありました。その頃から「馬鹿ばやし」という「太鼓ばやし」が神社の神楽殿で奉納されたといわれています。なお明治元年には福蔵院秋葉神社を火産霊神社



〔火産霊神社（ほむすびじんじや）〕

に改称しました。

◇「馬鹿ばやし」とは

火産霊神社に伝承される「馬鹿ばやし」芸能は昭和三十七年に福井県無形民俗文化財に認定されました。毎年五月二十四日春季御例祭で奉納されます。「馬鹿」といわれる由縁は不詳ですが、福井藩主松平家二代藩主忠直公の側室一国女が、おどけた「かぶらや」を見てクスッと笑ったことから、城内に入る許可を得たと伝えられています。一方で「馬鹿ばやし」自体は室町時代（一三三六～一五七三年）に始まったともいわれており、一乗谷朝倉家のご用商人多田善四郎氏がお面を寄付し、同時に「馬鹿ばやし」の芸能を伝えたという言い伝えがあります。



〔馬鹿ばやし〕

舞台の中央に大太鼓を据え、お面を付けた演者が一人ずつ順番に笛と小太鼓のお囃子に合わせて大太鼓を打ちます。お囃子の旋律は一つで、例えば、「ひょっとこ」であ

れば動作は力強さよりは、滑稽さを表現します。"お多福"の場合、動作は静かに優しい感じの打ち方を演じます。これは全国的には類を見ない独特の芸能で、その特徴はお面の持つキャラクターをいかに演者が身体や音を用いて表現するかがテーマとなっています。



〔馬鹿ばやしの12面の面のうち
お多福とひょっとこ〕

◇赤レンガ倉庫について

昭和二十年福井空襲・昭和二十三年福井震災の際には社殿も含め、多くが焼き尽くされてしまいましたが、境内に現存する赤レンガ倉庫（三メートル四方）は奇跡的に戦禍から逃れることができた。その屋根には焼夷弾が刺さっていたと聞いています。

この倉庫には神事の道具、お面や太鼓、舞台道具などが収納されており、被災せずに守られました。この倉庫は、四方にモルタル仕上げの大走りを施した煉瓦造の小規模な建物です。外形は正方形で四隅に柱型を持つ「イギリス積み」と呼ばれる形式で、煉瓦は軒まで「焼成煉瓦」とよばれる火に強い原料を低温で加熱し再度密着させて強化した煉瓦を使っています。内側の壁、天井は鉄筋コンクリート造りで、これは当時としては最先端の構造建築とされています。正面内壁上部には「奉納 大正 拾四年八

月 熊谷三太郎氏 発起人 井上興藏」の墨書銘があり、明治三十一年に熊谷組を創業した熊谷三太郎の施工と考えられます。この倉庫が令和五年福井市指定有形文化財建造物になりました。



〔赤レンガ倉庫〕

今後、赤レンガ倉庫が残してくれた文化財を大切に活用し、この伝統芸能を通して次世代を生き抜く子ども達とともに継承し発展させていきます。

◇今後の文化財の継承

近年、地域の公民館で月に一回、小学生の子ども達を対象に「子ども馬鹿ばやし」の練習会を行なっています。子ども達の上達スピードは速く、一つひとつの動作を丁寧に取り組む姿は、学ぶところも多行なう動作を実によく観察してい



〔報徳幼稚園馬鹿ばやし〕

て、大人が演じる動作を、いつの間にか自分たちの動きとして巧みに取り入れています。子ども同士でかにかいあいながら練習したりして、仲間意識も自然に育ち、休憩の時には学年を超えて、全体で遊ぶゲームをしたりしています。伝統芸能を学びながら、相手を思いやる気持ちも自然と身についていくものだと改めて感じています。



〔旭っこ自主活動子ども馬鹿ばやし〕

今回財団からの助成金により舞台で使用する中幕を新調したところ、子ども達を含め演ずるメンバーの多くは、さらに緊張感を持って演じていたように思います。演じきった後の達成感が表情に表れていました。

毎年春季御例祭に神楽殿で奉納される「馬鹿ばやし」ですが、昔は例祭式典終了後、氏子が各町内を練り歩き、また近年では一〇年に一度の大祭の折に、山車に組み立てられた山の上で町内を披露して回りました。ただ残念なことに山車を引くためには大勢の人が必要であり、多額の経費もかかることから、現在、記念大祭の巡行すら困難となつています。そのような状況であるうとも、いつの日か、今頑張ってくれる子ども達が出陣をうけて町内を練り歩けるよう努めてまいります。

寄稿

無形民俗文化財たる 「三谷神楽」らしさ

島根県益田市美都町

三谷神楽社中

代表 橋渡 徹也

(令和七年度助成先)

◇発足から現在に至るまで

地域の五穀豊穡・無病息災を祈念するため、明治初年、大神楽神社の宮司・大石千代太が美都町中倉の三浦民七に教えて一座をつくらせたのが三谷神楽社中のはじまりです。これは西流といわれる六調子の神楽でした。その後、浜田市長浜町を中心として盛んになった八調子革新神楽舞(東流)は、明治二十七年鎌手の宇治に波及し、ここを中心として石見西部地方に広まってきました。そして、明治の末頃この革新神楽は、田原初造、長岡広一郎、篠原金之助らにより、宇治社中から三谷神楽社中へと取り入れられ、昭和五十六年には美都町無形民俗文化財に指定され、現在に至っております。

◇受け継がれる「衣装と面」

三谷神楽の衣装は、昭和の初め頃までは更紗、友禅、金襴等で作った簡素な物でしたが、昭和十年益田市豊川町の栃山より四五〇円で刺繍物の立派な衣装一式を購入しました。当時この衣装は他社中には見られない立派なもので、近隣では群をぬき、見物者を魅了したといわれています。また面については、初期の頃は用いていなかったようですが、東流になり使用する

ようになったと伝えられており、木彫りのものが多く、眉毛の上がぐるぐると廻っているものや、麦まんじゅうと呼ばれ古くから伝わる三谷神楽社中独特のユーモラスな面を所有しています。



[木彫りの神面 演目：切目]

舞や奏楽だけではなく、衣装や道具一つひとつも三谷神楽を象徴する伝統であるという教えから、毎年修繕や復元を行ない、大切に受け継いでまいりました。

そのような中で、この度の助成金を活用させていただき、先人より永く大切に受け継がれてきた衣装や道具の復元を行ない、十数年ぶりに復活致します。演目「楠公・楠木正成」で使用し、令和七年一月に地元美都町で開催されます神楽大会において披露をさせていただきます。予定としております。

◇「三谷神楽らしさ」

前文にも触れましたが、三谷神楽は昭和五十六年に美都町無形民俗文化財に指定されました。「有形」ではなく「無形」というところに、タイトルにもさせていただきました「三谷神楽らしさ」が秘められています。文字通り「形が無い」民俗文化財であるが故に、先人達の舞は「流れ」のみが共通認識されて



[左：復元後 右：復元前
面師と共に購入当時の色合いを
模索しながら復元]



[三谷神楽を代表する演目：鐘馗]

◇三谷神楽の「本質」とは

目に見えない「三谷神楽らしさ」を体現することは容易ではなく、また先人達からの教えは人それぞれある「味のある舞をしないといけない」という言葉も実に抽象的であり、「無形」が故の難しさを感じさせます。要は、「形に捉われず本質を極めなさい」ということであるとうと解釈しています。一つひとつ

いるだけであり、各々の個性的な所作が集い形を成しております。故に、先人達からの教えは人それぞれ違っており、二人として同じ教えをされる方はおりませんでした。しかしながら、今日に至るまでの「三谷神楽らしさ」という目に見えぬ伝統と向き合う中であって、「三谷は昔から変わらぬ舞をするな」という地元の方達の声をいただきます。「三谷神楽らしさ」は知らず知らずのうちに継承されていたのです。その証拠に、新たに入った社中員から「みんな言うことがバラバラでどれが正しいかわからない」と言われました。この伝統もしつかりと継承したようであります。



[演目：塵輪]

◇次世代へ

神楽の練習をするだけでは、上手になっても観る人を魅了できない。前文で触れたこのことを、指導をしている「三谷神楽キッズ」においても実感します。礼儀を重んじて礼節を実行できるよう指導しており、これが身に付いている子の神楽は観る人に感動を与えます。しかし、鬼を演じていても真面目な鬼になっしてしまうのです。これもまた「生き様」によるものであり、これから様々な経験を積んでいく中で、「生き様」に深みが生まれ、三谷神楽キッズの時とはまた違った神楽を魅せてくれることを期待したいと思います。



[初めて女の子達だけで
取り組んだ演目：塩祓い]

寄 稿

江戸時代から二〇〇年継承されてきた
「垂水神社の奴組」

香川県丸亀市垂水町

垂水神社奴組保存会

会長 今田 洋文

(令和七年度助成先)

◇垂水町の変遷と垂水神社の役割

垂水町は、丸亀の市街地から南に約一〇キロに位置する田園地帯にあります。

近年では都市化が進み多くの団地が造成され田畑は減少し町の風景も一変しています。

昭和四十五年は、五〇〇世帯、人口二〇〇〇人の農村地帯の小さな町でしたが、近年では、二二〇〇世帯、人口も五五〇〇人まで増加しています。新しい新興住宅地では、多くの子供や若者達で活気に溢れ賑わっています。



[三百年振りに改築された社殿]

一方、この地で生まれ育った人達が住んでいる旧来の自治会は高齢化が進み、子供達や若者も減少の一途で町の活気も失われつつあります。

こうした旧来の自治会が、鎮守の社「垂水神社」を守り、奴組や獅子舞等の伝統行事を継承し、支えています。課題も山積しています。

◇垂水神社の奴組の歴史と役割

垂水神社(中野 都宮司)の奴組の奉納は、江戸時代の天保年間頃から始まり二〇〇年以上続く由緒ある伝統行事の一つになっています。

奴組は、挟箱が二つ、二人一組編成で四人、鳥毛が六本、二人一組編



[垂水神社での奴奉納]



成で二二人、総勢一六人の隊列を組み、祭りの前日から「伊勢音頭」や「甚句」を歌い、挟箱や鳥毛を投げ渡す奴技を披露しながら町内の家々を練り歩きます。

奴組は、当初は一地区専有の行事でしたが、戦後若者の減少に伴い存続の危機に見舞われ、その当時の一〇の自治会が協議を重ねた結果、奴組保存会を結成し各自治会が持ち回りで受け持つこととなりました。



[新社殿の前で舞う獅子舞]

◇湯立神楽と地域の文化財

地域の若者達の育成と親睦、そして地域全体の活性化が図られる等、垂水神社の貴重な文化財産として現在まで継承されてきました。

もう一つ、垂水神社には、香川県の無形民俗文化財に指定されている「湯立神楽」があります。宵祭りの終夜から夜明け前まで神事が続き、夜明け前に湯棚の下で薪に火を入れ、上に備えた大釜で湯をたぎらせ御神体を湯で清めます。五穀豊穡と町民の家内安全を祈願する江戸時代から三〇〇年続く伝統行事であります。また、多くの参拝者が残り火の上を素足で歩き身体健全を祈願します。この行事は、多くの参拝者が参加し、地域の文化財として継承されています。



[無形民俗文化財に指定された湯立神楽]

◇奴組継承の課題と取組み

奴組を継承していく上で二つの大きな課題があります。一つは人材の問題です。垂水町には、旧来の一〇の自治会があります。初年度は頭屋、次年度は奴組、その翌年は御神輿担ぎと続き、一〇年に一度自治会の持ち回りで、それぞれの役割を担当しています。



[氏子たちで注連縄(しめなわ)作り]

特に、奴組は一八人前後の要員が必要となり、どの自治会も高齢化が進み要員確保に苦勞しています。地区外に出た子供達を呼び寄せたり、地区内の団地の若者に声をかけたりして何とか人材確保ができています。

この対策の一つとして「奴お助け隊」という組織を編成し、奴の要員確保に困っている自治会はこのお助け隊の力を借りるというものです。お助け隊のメンバーは、祭りが三度の飯より好き、という若者

や奴が一〇年に一度では物足りない、という人達で編成します。もう一つの課題は、奴の衣装・道具の問題です。江戸時代から継承されている奴は、使用している衣装等も、私や私の親の世代でもいつ作ったか分からない、という古い物です。今回新調する挟箱や前掛けも、百年近く使用したものと思われ、相当痛んでいました。

◇未来への展望

このような状況の中、明治安田クオリティオブライフ文化財団様から「地域の伝統文化保存維持費用助成」の対象に認定していただき大変感謝しております。



[注連縄(しめなわ)で飾られた新社殿]

今後は、頂いた助成金を有効に活用し、伝統ある「垂水神社の奴組」を後世に末永く継承していきたいと思っています。

寄 稿

バットを人形に持ち替えて

長崎県東彼杵郡波佐見町
皿山人形浄瑠璃保存会

会長 福田 学
(令和七年度助成先)

皿山の人形浄瑠璃の始まり

長崎県中央北部に位置する波佐見町は、約四〇〇年の歴史を誇るやきもの町です。人形浄瑠璃が伝統芸能として継承されている皿山郷は、江戸時代からの窯場であり、所々に登り窯の跡や石炭窯のレンガ煙突が残され、その歴史を今に伝えていきます。

皿山の人形浄瑠璃の起源は、江戸時代中期の享保十七年(一七三二)の「享保の飢饉」により、やきものが売れなくなり、皿山の人々が人形浄瑠璃興行を思い立ち、大村藩領内各地を巡業して食糧を得たのが起源とされていますが、裏付けの文書等は何も残されておらず、由来については口伝の域を出ることはありません。

人形座の誕生と保存会の結成

人形座の活動を直接的に示す古い文献は、「安政五年午六月十五日 元 役割手扣」と表書きされた文書資料です。これには当時の外題(演目)などが詳細に記されており、安政五年(一八五八)時点の皿山人形浄瑠璃の活動状況が手に取るように理解できます。

幕末の万延元年(一八六〇)には、対馬藩領浜崎浦(佐賀県唐津市浜玉町浜崎)の質屋から一座分の

人形を購入し「美玉座」が結成されました。阿波(徳島県)の流れをくむ朝田林五郎が師匠となり、後に中津藩領北原村(大分県中津市北原)の人形芝居から吉田柳平を招いて「三人遣い」の方式の指導を受けて技術の向上を図りました。

明治以降は九州各地を公演し、昭和時代の戦争中は一時中断しましたが、終戦後の昭和二十八年(一九五三)に保存会が結成され、昭和二十九年(一九五四)に長崎県無形文化財、昭和五十二年(一九七七)には長崎県無形民俗文化財に指定されました。後継者不足で困難な時代を迎えましたが、平成元年(一九八九)地元のソフトボール

チームの青壮年十二人が後継者を名乗り出てバットを人形に持ち替えて熱心に練習に励み、近年では若手三人、小学生二人が入り若返りを図っています。県内外で盛んに公演を行ない、その実績が認められ、長崎県教育委員会表彰、県民表彰、地域文化功労者文部科学大臣表彰を受けました。様々な外題(演目)を演じて多くの観客を魅了しており、現在も県内では東彼杵町千綿宿郷の千綿の人形芝居(長崎県指定無形民俗文化財)とともに二座しか残らない人形座の一つとして伝承に努め、また精力的に公演を行なっています。

服装・道具・設備

「人形遣い」は全員が黒衣衣装であり、顔を見せません。かつては「主遣い」のみ袴を着用し、顔を出して人形を操作していました。道具

は基本的に人形、三味線、床本、見台で演目によって、舞扇・神楽鈴・刀なども使用し、鐘など音を出す楽器も使用しています。

舞台設備については、平成十七年(二〇〇五)に地元住民の寄附等によって建設された皿山人形会館を使用し、舞台は、吊りバット、スポット等が完備され、人形公演がスムーズに行なえるように様々な工夫がなされています。舞台上と二階には人形および道具の収納設備も設けられています。現在、皿山には50個以上の人形と立派な衣装が残っており、特に昔の歴史上の事件などに取材・脚色した時代物の浄瑠璃に優れている特徴があります。



〔皿山人形会館(皿山大神宮神社境内)〕

行事次第・演目・芸態

毎年八月二十一日の皿山郷鎮守・皿山大神宮神社の夏越祭(夏の祭) 神事直後、皿山郷千燈籠(夏祭り)の開始前に皿山人形会館で公演を行なっており、毎年十二月の第一日曜日の皿山器替祭りでも奉納公演を行なっています。

現在、上演可能な外題(演目)は、①『寿式三番叟』②『二人三番』

③『傾城阿波の鳴門』『順礼歌の段』『十郎兵衛住家の段』④『絵本太功記』『尼ヶ崎の段』⑤『生写朝顔話』『宿屋の段』『大井川の段』⑥『伽羅先代萩』『御殿の段』『政岡忠義の段』⑦『壺坂観音霊驗記』『沢市内より山の段』⑧『傾城恋飛脚』『新口村の段』⑨『伊達娘恋緋鹿子』『火の見櫓の段』⑩『鬼一法眼三略巻』『五條橋の段』の十演目です。



〔『鬼一法眼三略巻』『五條橋の段』〕

人形浄瑠璃は、人形を操る「人形遣い」、ストーリーを義太夫節にのせて語る「太夫」、伴奏を伴う「三味線」で構成されます。「人形遣い」は、一体の人形を三人で操る「三人遣い」であり、人形の頭と右手を操る「主遣い」、左手を「さし金」で動かす「左手遣い」、人形の下にしゃがんで足を操作する「足遣い」から成り、三人の息がぴったり合わないとい演じることはできません。このような非常に高度な技が要される三位一体となった操法によって人形に命を吹き込み、喜怒哀楽を演じさせます。

次世代への継承と課題

定期公演や町内外の公演の他、二年に一度開催される九州人形芝居フェスティバルに出演しています。近年では後継者の育成や技の継

承のため、人形浄瑠璃文楽座所属の太夫・三味線の師匠(国立文楽劇場出演)等を招いて共演する人形浄瑠璃や素浄瑠璃鑑賞会(波佐見町総合文化会館大ホール)を開催しています。また、一月および十一月には国立文楽劇場の公演を鑑賞し、劇場内の各部署を見学する研修も実施しています。



〔人形浄瑠璃文楽座(国立文楽劇場出演)の太夫・三味線との共演時演奏〕

令和七年(二〇二五)長崎県で初めて開催の第四十回国民文化祭、第二十五回全国障害者芸術・文化祭「ながさきピュス文化祭二〇二五」では、本町で十月十八・十九日(土・日)に「全国人形芝居フェスティバル」を開催し、若手会員も含め、全員で成功を目指して今練習に励んでいます。今後は、人形浄瑠璃文楽座所属の太夫・三味線の師匠等と共演する人形浄瑠璃・素浄瑠璃鑑賞会の開催や国立文楽劇場での公演鑑賞と見学を通じて人形操作の修練を行ない、今後可能であれば十年から二十年のうちに人形浄瑠璃文楽座所属の太夫・三味線の師匠のもとに会員を派遣したりして、保存会独自の太夫・三味線を育成したいです。海外での公演や波佐見町を訪れる外国人に対しての公演についても挑戦すべく日々精進したいと考えております。

寄 稿

城崎麦わら細工の継承に向けて

兵庫県豊岡市城崎町

かみや民藝店

神谷 俊彰

(令和七年度助成先)

◇城崎麦わら細工

城崎麦わら細工は、今から約三〇〇年前、因州(現在の鳥取県)から城崎に湯治に来ていた「半七」という人物が、療養中の宿賃の足しに色とりどりの麦わらを染め、こまや竹笛などの玩具に貼付け、店先に並べて訪れる人々の土産にしたのが始まりと伝えられている。



[原材料の大麦]



[麦わら細工イメージ写真]



[麦わら細工の制作風景]



[染色後の大麦]

制作しています。また、原材料である大麦確保は大変難しく、一部は自家栽培を行なっています。

節切りした大麦を染めやすくするために、重曹を溶かしたお湯で煮て、作品の色味に合わせて数十種に染色し、筒状の茎を湿らせ、切り開いて平らに伸ばし、桐箱や色紙、土鈴などの素材に色鮮やかな麦わらを糊で貼りつけていきます。

染色した麦わらがきめ細やかで美しい輝きを放つ装飾を施す技法としては、大きく分けて「模様張り」と「小筋(こすじ)張り」があります。「模様張り」は、花鳥や人物などの模様を桐箱に張って作り、優雅な曲線模様が持ち味です。幾何学模様の直線美に目を奪われる「小筋張り」は、色鮮やかに染められた数十種の中から選んだ複数のわらを糊でつなぎ合わせ、縞柄の

筋にして張るもので、ミリ単位の精度が求められる仕事であり、その技術の高さゆえに技術を有している職人は数人しかいません。

◇後継者育成

約三〇〇年続いた城崎麦わら細工がこのままでは途絶えてしまうと危機感を感じ、職人として、自身が受け継いできた技術を後世に伝えることが自身の使命であると強く感じ、豊岡市の地域おこし協力隊制度なども活用しながら後継者となるべき人材の育成に努めています。

現在に至るまで四人の地域おこし協力隊を採用し、技術の継承に努めてきました。ただし、地域おこし協力隊の任期は三年であり、その三年間で技術を継承することは不可能です。協力隊を卒業した中には、そのまま城崎内で暮らし続け、引き続き、かみや民藝店に足を運びながら技術継承に努めている人がいらつしやう、後継者の育成を長期的に実施しています。また、現在任期中の協力隊もそれぞれが技術の継承に励んでくれており、三年間で基礎や麦わら細工の現状や課題など多様なことを感じていただき、先輩の協力隊のように、麦わら細工の継承に向けて長期的に研鑽を積んでもらいたいと考えています。



地域おこし協力隊の方との写真
※現在は卒業し、店通いの弟子に

また、その他の取組みとして、豊岡市と連携し、令和三年から市内の各小学校にて麦わら細工製作体験授業を実施し、将来麦わら細工職人になりたいというきっかけづくりを行なっています(令和三年、令和六年の四年間で延べ約一〇〇〇人が授業を受けた)。



[小学校の授業の様子]

◇日本の伝統工芸から、世界へ

未来の後継者のためにも、城崎麦わら細工の認知拡大に努めることも今の自分自身には必要だと感じています。

世界でも認知度がだんだん上がってきている城崎温泉には、世界各国から多くの外国人旅行者が来訪されています。その中でも欧米の方々は麦わら細工に興味を持ってくれる方が非常に多く、アメリカでの観光イベントに参加した際には多くの旅行エージェンツの方から引き合いがありました。

また、フランスには独自の麦わら細工があります。最近、フランスの麦わら細工の方と繋がりを持つ

ことができ、実際に現地に行って話をしていく中で、日本やフランスで開催される展覧会等に共同制作した作品を出品するなど考え、制作を行なっているものもあります。城崎麦わら細工の未来のために職人がより活躍できる場を増やしていくことで、育てた後継者が今後の継続的に麦わら細工を製作できる環境を整えていきたいと考えています。



[麦わら細工作品]

◇おわりに

自身の祖父が麦わら細工の職人となり、父親、自身と伝統を受け継いでいっています。めまぐるしい時代の変化の中で、この麦わら細工を残していくことは非常に大変であると感じています。しかしながら、お店に麦わら細工を買いに来ってくれる観光客の多くの方から、「今後も続けていってほしい」「この文化は残すべきだ」など、日本の方だけでなく、海外の方からも多くのお声をいただきます。その声を聞くたびに、この「城崎麦わら細工」を残したいと感じますし、それに携わっている自分も誇らしく感じます。

そういった方々のためにも、今後も新しい後継者の発掘と、既存の後継者の育成、後継者の活躍場の創造を行なうことで、この伝統工芸の歴史が今後も紡がれることを願っています。

平成3年～令和7年 都道府県別伝統文化助成先一覧(1) *印は民俗技術

助成先		助成先		助成先			
長野県 岐阜県 三重県 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山 鳥取県 島根県 広島県 山口県 徳島県 愛媛県 高知県 福岡県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県	日吉お鍛様祭り保存会	長崎県	鷹島町島踊保存会	北海道 青森県 岩手県 宮城県 山形県 群馬県 東京都 新潟県 福井県 長野県 岐阜県 三重県 奈良県 和歌山 島根県 広島県 徳島県 福岡県 長崎県 大分県 宮崎県 平成4年度助成(34)	平成3年度助成(29)		
	白鳥拝殿踊り保存会				北海道	石崎奴保存会	
	大淀祇園祭保存会		大分県		荻田浮立保存会		厚岸かぐら保存会
	貝塚東三吉馬保存会		宮崎県		武多都神楽保存会		紙漉沢獅子踊保存会
	青田神楽保存会				潮嶽神楽保存会		七戸町郷土芸能保存会
	誠謡会		鹿児島		杣木臼太鼓保存会		白浜剣舞保存会
	真国御田保存クラブ				硫黄島八朔太鼓踊り		とよま山車まつり保存会
	アトリエ・グリヌ*				平成5年度助成(35)		今利一郎 氏(深山和紙製造)*
	赤塚神楽佐儀利保存会		北海道		ヤイユーカーラの森 *		岩島麻保存会 *
	江の川水系漁撈文化研究会 *				新十津川町獅子神楽保存会		説経節の会
	名荷神楽団		青森県		新山権現保存会		秋川歌舞伎保存会
	徳地人形浄瑠璃保存会		岩手県		上郷伝統工芸研究会 *		神谷地域ビデオ収録委員会
	猿坂獅子組保存会				赤澤芸能保存会		越前万歳保存会
	八幡丸運営委員会		宮城県		宮崎獅子舞保存会		木曾漆器保存調査会 *
	宮谷堂の口あけまつり保存会		秋田県		中野七夕保存会		大井文楽保存会
	四三嶋獅子廻し実行委員会		山形県		堀内伝承文化保存会		東玉垣唐人踊り保存会
	館浦須古踊り保存会		栃木県		山岡和三郎 氏(日光下駄) *		石打太鼓踊保存会
	大島村盆踊振興会		群馬県		大神楽獅子舞保存会		大島水門祭保存会
	中江岩戸神楽保存会子供神楽部会		埼玉県		明覚郷流鎗馬保存会		西本里美 氏(西田葛の復興) *
	重岡岩戸神楽保存会		千葉県		野田津久舞保存会		島後久見神楽保持者会
	村所神楽保存会		神奈川県		大谷芸能保存会		比和町郷土芸能振興会
	佐々木寛治郎 氏(手漉き和紙)*		石川県		能登の揚浜式製塩保存会 *		金城一斎斎後継者池田昭人 氏 *
蓬原熊野神社神舞保存会		福井県	花山行事保存会		西原上十二神祇神楽保存会		
伊江村民俗芸能保存会		岐阜県	加子母歌舞伎保存会		中村園太夫座(岡花座)		
平成7年度助成(43)		愛知県	甚目寺説教源氏節人形芝居「もくもく座」	徳島県	加布里山笠保存会		
北海道 青森県 岩手県 秋田県 山形県 福島県 栃木県 千葉県 新潟県 富山県 福井県 山梨県 長野県 岐阜県 三重県 滋賀県 大阪府 兵庫県 鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県 福岡県	月浦獅子舞保存会	三重県	東玉垣唐人踊り保存会	福岡県	新多神相撲保存会		
	釧路アイヌ民芸企業組合 *			二木島祭保存会		新多神相撲保存会	
	沼崎念仏鶏舞保存会		滋賀県	吉身祭礼保存会	長崎県	大村龍踊り保存会	
	小梨芸能保存会		兵庫県	福田お幡入れ法伝哉伝承保存会	大分県	木牟田子供神楽保存会	
	戸沢ささら保存振興会		和歌山	土生八幡神社「お頭保存会」	宮崎県	諸塚神楽保存会	
	鷹巣町綴子太鼓上町保存会		島根県	西田葛生産組合 *		大人歌舞伎保存会	
	遊佐のアマハゲ保存会			中野神楽保存会	平成6年度助成(40)		
	峠ノ山八幡神社弓祭協賛会		広島県	八千代神楽団	北海道 安浦駒踊り保存会 長沼町勇獅子舞保存会 妹背牛町獅子舞保存会 上郷伝統工芸研究会* 伊藤流行山鹿踊保存会 鷹生郷土芸能保存会 金津七夕祭保存会 大葛金山民俗芸能保存会 前山郷土芸能保存会 押切神楽保存会 民具製作技術保存会* 下部温泉神楽保存会 岐南町伏屋獅子舞保存会 東玉垣唐人踊り保存会 一色町能楽保存会 三日月市ワナイ保存会 淡河八幡播州音頭・踊り保存会 池尻神社人形狂言保存会 龍口獅子舞保存会 日南神楽 神光社 西本里美 氏(西田葛の復興) * 隠岐いぐり風保存会 * 備後かすり学習会* 羽佐竹神楽団後援会 鷺の舞保存会 船戸花取踊り保存会 大分の獅子保存会 今寺面浮立保存会		
	葛尾村公民館		山口県	鷺の舞保存会			
	大沢田太々神楽保存会		徳島県	森藤獅子舞保存会			
	佐原囃子保存会		香川県	中山農村歌舞伎保存会		岩手県	
	片野尾歌舞伎保存会		高知県	佐喜浜八幡宮古式行事保存会			
	八尾町曳山保存会		福岡県	内野地区老松神社獅子舞保存会			
	糸崎寺仏舞保存会		長崎県	坂本浮立保存会			
	福谷区大火勢保存会		熊本県	上井出神社奉納楽保存会		宮城県	
	藤木道祖神祭保存会		大分県	大行事八幡宮(カッパ)踊保存会)		秋田県	
	信級中原流太々神楽囃子保存会		宮崎県	村所神楽保存会		山形県	
	高雄歌舞伎保存会		鹿児島	東郷文弥節人形浄瑠璃保存会		神奈川	
	深野和紙保存会 *			平成6年度助成(40)		山梨県	
	岩熊区雅楽保存会		北海道	蘭越町根曲がり竹細工研究会 *		岐阜県	
	能勢町人形浄瑠璃実行委員会			鬼鹿松前神楽保存会		三重県	
	堺式手織緞通技術保存協会 *		青森県	鮫神楽保存会			
	熊野神社裸祭り保存会		岩手県	上郷伝統工芸研究会 *			
	新田人形浄瑠璃芝居相生文楽			石橋鑑剣舞保存会		兵庫県	
	鹿子原の虫送り踊り保存会			夏井大梵天神楽保存会			
	出雲民芸紙工房 *		宮城県	塩入神楽保存会			
	壬生農村歌舞伎保存会		秋田県	尾去沢からめ節保存会		奈良県	
	常定神楽継承団体「戸山会」		山形県	北條郷総鎮守獅子冠事務所		鳥取県	
	別府岩戸神楽舞保存会		茨城県	柿岡からくり人形保存会		島根県	
	犬飼農村舞台保存会		東京都	西川古柳座			
	家の浦二頭獅子舞保存会		富山県	五ヶ種チョンガレ踊り保存会		広島県	
	三浦西安米自治会子供武者行列「大江山」保存会		石川県	柏野じょんがら保存会			
	野市町立山神社棒術獅子舞保存会			能登の揚浜式製塩保存会 *		山口県	
	平八月祭り保存会		福井県	だのせ祭り保存会		高知県	
		山梨県	美和神社太々神楽保存会	福岡県			
				佐賀県			

平成3年～令和7年 都道府県別伝統文化助成先一覧(2) *印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
助成先		平成9年度助成(47)		平成7年度助成(続き)	
群馬県	大宮神社獅子舞保存会	北海道	雷公神社神楽会	佐賀県	七浦西塩屋面浮立保存会
神奈川	海南神社面神楽保存神楽師会	青森県	田子神楽保存会		武雄流鎗馬実行委員会
新潟県	湯川五社神社伶人会	岩手県	行山流都鳥鹿踊保存会	長崎県	中尾獅子浮立と唐子踊保存会
石川県	木津豊漁太鼓保存会	宮城県	嵯峨立神楽保存会	熊本県	久連子古代踊り保存会
福井県	若狭町三宅六斎念仏保存会	秋田県	森岳歌舞伎保存会	大分県	丸山俚楽保存会
	今庄羽根曾踊保存会	山形県	小田島田植踊保存会	宮崎県	今西三段打分太鼓踊保存会
長野県	内山柱松保存会	福島県	北部先囃子若龍会	鹿児島県	入来麓疱瘡踊保存会
岐阜県	若松友志会	栃木県	芦沼獅子舞保存会		佐仁八月踊り保存会
三重県	栗谷念仏踊り保存会	群馬県	沼須人形芝居保存会(あけぼの座)		中村悦子 氏(芙蓉布復元) *
滋賀県	老杉神社頭屋行事保存会	千葉県	野田津久舞保存会	平成8年度助成(47)	
京都府	伊根町立石区	神奈川	宮城野獅子舞保存会	北海道	留萌岩戸神楽保存会
	久多の山村生活用具保存会 *	新潟県	瞽女唄ネットワーク		(財)アイヌ民族博物館 *
大阪府	野間出野秋祭り保存会		越後弥彦手仕事倶楽部 *	青森県	古懸獅子舞保存会
兵庫県	多可町播州歌舞伎クラブ	富山県	八尾町曳山保存会	岩手県	行山流都鳥鹿踊保存会
奈良県	祭文音頭保存会	石川県	小松市歌舞伎愛好会		平組はしご虎舞保存会
和歌山	木本八幡宮の御田祭保存会	福井県	和久里壬生狂言保存会	宮城県	武鎗鹿踊保存会
鳥取県	円通寺人形芝居保存会	長野県	仁科神明宮神楽保存会	秋田県	北秋田市綴子下町太鼓保存会
島根県	出雲大社教神代神楽波積支部波積神楽団	岐阜県	新楽舎獅子舞保存会		鳥田目番楽保存会
	今田町内会	静岡県	島田帯祭保存会	山形県	山形町ふるさと資料館
岡山県	横野和紙工業協同組合 *	愛知県	古出来町神社奉賛会お祭囃子保存会	福島県	上三坂のやっちき踊り保存会
広島県	比和町郷土芸能振興会	三重県	長太鯨船(天王丸)保存会	茨城県	あんば囃子保存会
徳島県	つるぎ町天の岩戸神楽保存会		なすび団扇継承保存会 *	栃木県	宗円獅子舞保存会
香川県	香翠座デコ芝居保存会		深野和紙保存会 *	群馬県	沼田祇園囃子保存会連合会
愛媛県	弓削雨乞踊保存会	滋賀県	綿向神社雅楽「楽人座」	千葉県	仁組獅子舞保存会
高知県	西畑人形芝居保存会	京都府	棚倉孫神社瑞饗御輿保存会	東京都	ふるさと資料館建設推進委員会 *
福岡県	鐘崎盆踊り振興会		久多の山村生活用具保存会 *	神奈川	仙石原神楽保存会
佐賀県	東真手野舞浮立保存会	大阪府	三夜連絡継承会	新潟県	赤玉文化財保存会
	嬉野町温泉区面浮立保存会	兵庫県	播州音頭踊保存連合会	富山県	八尾町曳山保存会
長崎県	黒丸踊保存会	奈良県	安堵町なもて踊り保存会		福野縞の会 *
熊本県	目丸棒踊り保存会	和歌山	高芝の獅子舞保存会	福井県	加茂神社上宮の神事
	本町虫追い太鼓を考える会	鳥取県	福栄伝統芸能保存会	山梨県	大久保神楽保存会
大分県	国東神楽社	島根県	民谷神楽団		沢登六角堂切子保存会 *
宮崎県	綾町宮原地区唐人踊り保存会	岡山県	大賀島大智明権現保存会	長野県	成就神楽囃子保存会
鹿児島県	伊崎田和紙保存会 *	広島県	江波漕伝馬保存会		阿島傘の会 *
	鹿児島市中山町下虚無僧踊保存会	徳島県	高川原勇獅子保存会	岐阜県	串原歌舞伎保存会
沖縄県	草戸原	香川県	東かがわ市白鳥虎頭舞保存会	愛知県	(財)平野町市政会
	前バル原	高知県	土佐の暮らしの文化を守る会	三重県	一色町能楽保存会
平成11年度助成(48)		福岡県	松会保存会		深野和紙保存会 *
北海道	蘭越町根曲がり竹細工研究会 *	佐賀県	飯田面浮立保存会	大阪府	船待神社神楽子供獅子踊り保存会
	穂別町アイヌ民族文化保存会	長崎県	若宮稲荷神社 竹ン芸保存会	兵庫県	廣峯神社無形文化財保存協議会
青森県	靄神社法霊神楽保存会	熊本県	中窪田神楽保存会	奈良県	南都晃耀会
岩手県	山内神楽保存会	大分県	野々河内神楽保存会	鳥取県	馬佐良申し上げ祭り保存会
宮城県	城生野神楽会	宮崎県	高城町穂満坊あげ馬保存会	島根県	伝承ホーランエンヤ馬湯權伝馬保存会
秋田県	大沢郷椒沢番楽保存会	鹿児島県	徳重大太鼓踊り保存会	岡山県	川上町渡り拍子保存会
山形県	越沢自治会		平原利秋 氏(ゴッタン民俗楽器製作) *	広島県	阿刀神楽保存会
福島県	海老根伝統手漉和紙保存会 *	沖縄県	泡瀬京太郎保存会	山口県	陶腰輪踊保存会
	豊景神社太々神楽保存会		伊波貞子 氏(メジャー・織物) *	愛媛県	お簾踊保存会
茨城県	日枝神社流鎗馬保存会	平成10年度助成(47)		高知県	遼・三番双保存会
栃木県	升塚獅子舞保存会	北海道	穂別町アイヌ民族文化保存会	福岡県	流鎗馬武徳会
群馬県	奥平神社獅子舞保存会		白符荒馬踊保存会	佐賀県	蔵上御田舞保存会
埼玉県	深作ささら獅子舞保存会	岩手県	丹内金津流鹿踊保存会	長崎県	鬼木鐘浮立保存会
東京都	江戸消防彩粋會	行山流湧水鹿踊保存会		熊本県	南阿蘇長野岩戸神楽保存会
新潟県	杉野沢民俗芸能保存会	宮城県	山伏神楽保存会	大分県	天間地区公民館
富山県	福光ちょんがれ保存会	秋田県	雄物川町岡本新内伝承会	宮崎県	広原神楽保存会
石川県	上井田獅子舞保存会		五城目町民俗芸能保存連絡協議会	鹿児島県	大の始式保存会
福井県	美浜町和田区		横岡サエの神保存会		柏原区芸能保存会
山梨県	中之倉神楽保存会	山形県	平田さしこの会 *	沖縄県	武富旗頭復元実行委員会
長野県	日野多慶子 氏(願法寺の絵解き)	群馬県	猿田彦神社大和神楽保存会		
三重県	曾原かんこ踊保存会				

平成3年～令和7年 都道府県別伝統文化助成先一覧(3) *印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
佐賀県	西神野玄蕃一流浮立保存会 千代田中部小学校 高志狂言保存会	徳島県	坂州若連中	平成11年度助成(続き)	
長崎県	大浦区舟グロー保存会	香川県	ひょうげ祭り保存会	滋賀県	油日神社奴振り太鼓踊り保存会
熊本県	菜ノ花会＊ 相良吾平阿蘇神社伝統神楽保存会 産島八幡宮海を渡る祭礼保存会	愛媛県	内子町伝統文化継承団体連合会 川名津神楽保存会 一の宮万歳保存会	大阪府	吉志部神社どんじ保存会
大分県	板井迫神楽保存会	高知県	吉木芸能保存会	兵庫県	大蔵谷獅子舞保存会
宮崎県	虚無僧踊保存会	福岡県	立岩浮立保存会	奈良県	吉野山青年団御田植神事保存会
鹿児島	塩田次郎 氏(薩摩琵琶製作)＊	佐賀県	馬渡区鉦浮立保存会 土井丸浮立保存会	和歌山	小川郷土芸能保存会
沖縄県	津波古獅子蹴跳保存会＊ 那覇市首里汀良町獅子舞保存会	長崎県	大浦区舟グロー保存会 嵯峨島オーモンデー保存会	鳥取県	芦津獅子舞保存会
平成14年度助成(48)		熊本県	福山神楽保存会	島根県	玉若酢命神社御霊会風流保存会
北海道	篠路歌舞伎保存会	大分県	和間放生会祭典委員会 北原人形芝居保存会	広島県	幸崎町能地春祭保存会
青森県	入口青年会	宮崎県	伊形花笠踊り保存会	山口県	数方庭保存会
岩手県	彦部郷土芸能保存会 板用肩怒剣舞保存会	鹿児島	塩田次郎 氏(薩摩琵琶製作)＊ 下小原八月踊保存会	徳島県	阿波木偶箱まわし保存会
宮城県	河南鹿嶋ばやし保存会 君萱若松神社神楽会	沖縄県	大川青年会 謝名アヤチ獅子保存会	香川県	NPO法人農村歌舞伎祇園座保存会
秋田県	東長野ささら保存会	平成13年度助成(50)		愛媛県	高知獅子保存会
山形県	南陽市古代織りの伝統を守る会＊	北海道	ペーパン福島踊り保存会	高知県	長命講伊勢踊
福島県	白鳥神社太々神楽保存会	青森県	高館駒踊保存会	高知県	土佐歌舞伎伝承会
茨城県	真家みたまおどり保存会	岩手県	小袖漁撈唄保存会	福岡県	今津人形芝居保存会(恵比須座)
栃木県	上横倉の獅子舞保存会	宮城県	湯屋神楽保存会	佐賀県	嘉瀬の浦獅子浮立保存会
群馬県	千本木龍頭神舞保存会	秋田県	筆甫神楽保存会	長崎県	森鉦浮立保存会
埼玉県	沖内囃子保存会	山形県	八沢木獅子舞保存会	熊本県	西大村浮立保存会
千葉県	野田津久舞保存会	福島県	福米沢送り盆保存会		櫛木神楽保存会
東京都	手作り絹研究会・多摩織部会＊	茨城県	八ツ沼大名行列組合	大分県	高沢組太鼓踊り保存会
神奈川	相模里神楽垣澤社中	栃木県	両原早乙女踊り保存会	宮崎県	五馬玉来神社神楽保存会
富山県	諏訪神社獅子舞保存会	群馬県	東金砂神社田楽舞保存会	鹿児島	尾八重神楽保存会
福井県	じぐれ祭保存会	神奈川	大沢田太々神楽保存会	鹿児島	久留 平 氏(太鼓製作)＊
山梨県	下市之瀬の獅子舞保存会	新潟県	上泉獅子舞保存会		津貫中間豊祭太鼓踊り保存会
長野県	表門神社神楽保存会	福井県	長安寺六字詰念仏講中	沖縄県	平出水太鼓踊り保存会
岐阜県	木賊獅子保存会	長野県	二田物部神社神楽舞保存会		津波古獅子蹴跳保存会＊
愛知県	有道しゃくし保存会＊ 伝承知多木綿つものき＊	岐阜県	今庄羽根曾踊保存会	保栄茂自治会	
三重県	石上げ祭伝承保存会	愛知県	湯原神社式三番保存会	平成12年度助成(49)	
滋賀県	野口御神楽保存会	三重県	外倉獅子舞保存会	北海道	掛濶奴保存会
兵庫県	上砥山田楽踊保存会	滋賀県	高桑太鼓保存会	青森県	目名神楽会
奈良県	南光子ども歌舞伎育成会	京都府	金沢歌舞伎	岩手県	上郷しし踊り保存会
和歌山	月ヶ瀬奈良晒保存会＊	大阪府	なすび団扇継承保存会＊	宮城県	塚沢早池峰神楽保存会
島根県	藤白の獅子舞保存会	奈良県	「てんてん」保存会	秋田県	和渕法印神楽保存会
岡山県	南本通吉兆行事保存推進協議会	和歌山	古高鼓踊り保存会	山形県	秋田市太平山谷番楽保存会
広島県	白明会＊	鳥取県	天満神社相撲保存会	福島県	沢渡獅子舞保存会
山口県	大朝飾り牛保存会	島根県	榎井西青年団		海老根伝統手漉和紙保存会＊
愛媛県	徳佐はやしだ保存会	岡山県	宗教法人 廣峯神社	茨城県	八槻都々古別神社楽人会
福岡県	井原圭子 氏(和紙用簀製作)＊	広島県	月ヶ瀬奈良晒保存会＊	群馬県	西金砂神社田楽舞保存会
佐賀県	水田天満宮稚児風流保存会	山口県	熊野速玉大社祭事保存会	埼玉県	平出歌舞伎保存会
	戸ヶ里浮立保存会	徳島県	江波三番叟保存会	千葉県	日進餅つき踊り保存会
	祖子分面浮立保存会	愛媛県	都神楽団	神奈川	NPO法人小田原鋳物研究所＊
長崎県	滑石竜踊保存会	岡山県	地域伝統工芸がませごの会＊	新潟県	城腰花笠踊保存会
熊本県	菜ノ花会＊	広島県	神根神社獅子舞保存会	富山県	岩瀬まだら保存会
大分県	九州相良古代踊り下免田保存会	山口県	磐門神楽団	山梨県	八朔祭下町屋台保存会
宮崎県	佐伯市宇目酒利獅子保存会	徳島県	郷之崎神楽団	長野県	小菅神社氏子総代会
	下旦祇園囃子保存会こども祇園囃子	愛媛県	山崎八幡宮 本山神事保存会	愛知県	大治太鼓保存会
	行膝町白太鼓踊り保存会	福岡県	大俣じょうれい 踊り保存会		能田徳若万歳保存会
	六日町ヨイマカ保存会	佐賀県	河内口説保存会	三重県	ゆうづる会＊
鹿児島	塩田次郎 氏(薩摩琵琶製作)＊		野間獅子連中		大江羯鼓踊保存会
	鯨島健志 氏(加世田の鍛冶)＊		うきは市石垣保存実行委員会＊	滋賀県	下笠参弥礼踊り保存会
沖縄県	大浜青年会		佐賀錦振興協議会＊	兵庫県	さいれん坊主保存会

平成3年～令和7年 都道府県別伝統文化助成先一覧(4) *印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
岩手県 宮城県 秋田県 福島県 茨城県 栃木県 群馬県 千葉県 東京都 神奈川 石川県 福井県 愛知県 滋賀県 大阪府 兵庫県 和歌山 鳥取県 島根県 広島県 徳島県 香川県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県	生出神楽保存会 大曲法印神楽保存会 大湯太太鼓保存会 会津万歳安佐野保存会 片野排禍ばやし保存会 興野ささら獅子舞保存会 泉沢町郷土芸能保存会 万作踊り松戸保存会 美山町鯨獅子舞保存会 あつぎひがし座 加賀万歳保存会 舟寄踊保存会 きねこさ祭保存会 椿神社流鏑馬保存会 大阪欄間工芸協同組合＊ 仁色長持保存会 糸我郷土伝統芸能保存会 美成地区 野石谷伝統芸能保存会 諸木郷土芸能保存会 多田健二氏(阿波木偶人形制作)＊ 香翠座デコ芝居保存会 豊前感應楽保存会 西牟田区子供こし・鉦浮立保存会 平島ナーマイドー保存会 ききつ船津ペーロン保存会 竹迫観音祭保存会下町分会 栖本町郷土芸能保存会 保戸島伝統芸能保存会 熊襲踊保存会 細野一区輪太鼓踊り保存会 小島棒踊り保存会 中間棒踊り保存会 中城村字津覇伝統芸能保存会	兵庫県 鳥取県 島根県 広島県 香川県 愛媛県 高知県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県	小五月祭(棹の歌)保存会 賀露神社麒麟獅子舞保存会 須佐神楽保存会 小原大元神楽 小原神楽団 南方の万灯保存会 肥土山農村歌舞伎保存会 豊茂五ッ鹿踊り保存会 西諸木花取踊り保存会 広瀬浮立保存会 太田尾町自治会＊ 戸根浮立保存会 加勢川開発研究会合せ打保存会＊ 下里臼太鼓踊り保存会 荻神社俚楽 太郎坊べぶ踊り保存会 入来神舞保存会 新川青年会	平成14年度助成(続き)	
				沖縄県 今泊棒術保存会	
				平成15年度助成(35)	
北海道 青森県 宮城県 秋田県 山形県 群馬県 千葉県 神奈川 石川県 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 京都府 兵庫県 奈良県 和歌山 鳥取県 島根県 広島県 徳島県 愛媛県 高知県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県	剣渚神楽保存会「剣龍会」 大川原の火流し保存会 山田大名列組合 湯船保存会＊ 根子番楽保存会 吹浦田楽保存会 行田獅子舞保存会 バツパカ獅子舞保存会 長谷ささら踊り盆唄保存会 輪島市本町キリコ奉賛会 数河獅子保存会 富士宮囃子保存会 住吉ちんところ祭委員会 本郷「かんこ」踊り保存会 志那中サンヤレ踊り保存会 二箇上区 阿良須神社練込保存会 魚吹八幡神社武神祭保存会 尾山萬歳保存会 椎出の鬼の舞保存会 貴布禰神社麒麟獅子舞保存会 見々久神楽保持者会 枝の宮田楽団 つるぎ町一字雨乞い踊り保存会 佐田岬裂織り保存会＊ 客天弓祈祷保存会 狩山豊年踊保存会 求菩提山お田植祭保存会 仁比山神社大御田祭御田舞保存会 上戸石町自治会 西安寺神楽保存会 大恩文化財愛護少年団 唐瀬子供神楽会 田之浦山宮神社神楽保存会 いしゃなぎら青年会	北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県 茨城県 栃木県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川 福井県 山梨県 長野県 愛知県 三重県 滋賀県 兵庫県 奈良県 和歌山 鳥取県 島根県 広島県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県	青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県 茨城県 栃木県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川 福井県 山梨県 長野県 愛知県 三重県 滋賀県 兵庫県 奈良県 和歌山 鳥取県 島根県 広島県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県	平成16年度助成(36)	
				青森県 片岸えんぶり組 岩手県 田束剣舞保存会 宮城県 廿一田植踊保存会 秋田県 黒川番楽保存会 山形県 羽黒山松例祭若者衆 福島県 昭和村からむし織後継者 →育成事業実行委員会＊ 栃木県 尾ざく獅子舞保存会 群馬県 赤城町古典芸能保存会 千葉県 本納滝之谷獅子舞保存会 東京都 むさしのばやし保存会 神奈川 三増獅子舞保存会 富山県 宮崎神楽保存会 長野県 和田中神社太神楽保存会 愛知県 上駒沢祭典保存会 三重県 向山神楽獅子保存会 滋賀県 水沢お諏訪おどり保存会 京都府 ずいき祭保存会 大阪府 丹後藤布振興会＊ 大阪府 大阪太鼓文化研究会＊	
平成19年度助成(39)					
北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 新潟県 石川県 福井県 山梨県 長野県 愛知県 三重県 滋賀県 京都府	寿都松前神楽保存会 大平大神楽 法領田獅子踊り保存会 羽山神楽保存会 浪板虎舞保存会 鳥海山日立舞横岡番楽保存会 幸生区・三地区契組会 浮島神社太々神楽保存会 糠塚三匹獅子保存会 芦沼獅子舞保存会 山本政史氏(日光下駄製作)＊ 貝沢西組獅子舞保存会 下日出谷餅搗踊り保存会 八幡神社の獅子舞保存会 星竹囃子連 内島見神楽保存会 ニ所宮獅子舞保存会 長畝日向神楽保存会 藤木道祖神祭保存会 山新田太神楽保存・育成会 名古屋港筏師一本乗り保存会 矢浜神楽保存会 大原学区豊年太鼓踊り保存会 田山花踊り保存会	北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県 茨城県 栃木県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川 福井県 山梨県 長野県 愛知県 三重県 滋賀県 兵庫県 奈良県 和歌山 鳥取県 島根県 広島県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県	元更別大国神社石見神楽保存会 斗内獅子舞保存会 豊沢大念佛剣舞保存会	平成18年度助成(37)	

平成3年～令和7年 都道府県別伝統文化助成先一覧(5) *印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
				平成19年度助成(続き)	
長野県	玉依比賣命神社	青森県	乳井獅子保存会	兵庫県	小野原住吉神社神舞保存会
岐阜県	加納まちづくり会(和傘製作)＊	岩手県	四ツ堰鹿子踊り保存会	岡山県	栗井春日歌舞伎保存会
静岡県	巖室神社鎮火祭保存会		村崎野大乘神楽保存会	広島県	長尾神社湯立神楽保存会
愛知県	有松天満社文嶺講	宮城県	中新田火伏せの虎舞保存会	山口県	藤生神楽保存会
三重県	牛蒡祭保存会	秋田県	梅内郷土芸能保存会	徳島県	上八万伝統文化を守る会
滋賀県	志賀神社氏子総代	福島県	渡戸高野・鯨組	香川県	賀茂神社長床神事保存会
大阪府	三ツ松明土行念仏保存会	栃木県	文挾流手岡獅子舞講中	愛媛県	かぶと踊り保存会
兵庫県	北野まつり保存会	群馬県	新井八幡宮獅子舞保存会	高知県	東洋町流鏝馬保存協議会
奈良県	惣谷狂言保存会	埼玉県	北袋囃子連	熊本県	大浦獅子保存会
鳥取県	向垣神社祭礼行事保存会	千葉県	不入斗同志会		柳別府太鼓踊り保存会
島根県	玉若酢命神社御霊会風流保存会	東京都	代々木囃子保存会	大分県	深山流朝地神楽保存会
岡山県	佐方子供吉備神楽伝承教室	神奈川	山田獅子舞保存会	宮崎県	郷之原神社芸能協賛会
広島県	おおたけ手すき和紙保存会＊	新潟県	小向獅子舞保存会	鹿児島	鮫島健志 氏(加世田の鍛冶)＊
山口県	山代白羽神楽保存会	富山県	羽森神社神楽舞保存会		如竹踊り保存会
徳島県	橘だんじり祭り獅子組	石川県	櫛山獅子舞保存会	沖縄県	古見民俗芸能保存会
愛媛県	北方獅子舞保存会	長野県	門前とどろ保存会	平成20年度助成(40)	
高知県	シットロト踊り保存会		町区太々神楽実行委員会	北海道	寿都松前神楽保存会
福岡県	鷹尾神社伝統芸能文化保存維持会		高岡道祖神日待占祭保存会	青森県	上十川獅子踊保存会
佐賀県	母ヶ浦面浮立保存会	静岡県	笹間神楽保存会	岩手県	都島田植踊保存会
長崎県	平島盆踊り保存会	愛知県	日下部太鼓保存会	宮城県	日高見流浅部法印神楽保存会
熊本県	栖本町郷土芸能保存会	三重県	大江羯鼓踊保存会	秋田県	鳥海山小滝舞楽保存会
大分県	新町自治会	滋賀県	中堀町自治会孔明祈水山保存会	山形県	舟渡獅子踊り保存会
宮崎県	高木郷土芸能保存会	京都府	質美下村区文化財保存委員会	福島県	北萱浜神楽愛好会
	都城市高城町桜木あげ馬保存会	兵庫県	日吉神社龍王の舞及び祝詞太鼓保存会	栃木県	下鉢石町自治会
沖縄県	鳩間民俗芸能保存会		福住下自治会		宝積寺白鬚神社雅楽部
平成23年度助成(42)		奈良県	八島町六斎念仏講	群馬県	椿名神社太々神楽保存会
北海道	糠内獅子舞保存会	和歌山	南道奴行列保存会	埼玉県	脚折雨乞行事保存会
青森県	同心町熊野神社神楽連	鳥取県	江波三番叟保存会	千葉県	岩沼の獅子舞保存会
岩手県	外山神楽保存会	島根県	八神神楽団	東京都	田無ばやし保存会
宮城県	熊野堂神楽・舞楽・十二神鹿踊保存会		高津沖田地区環境保全向上対策協議会＊	神奈川	海南神社行道面保存会
秋田県	福嶋サイサイ囃子保存会	岡山県	宇甘神社獅子舞保存会	新潟県	他門神楽保存会
山形県	若宮八幡神社太々神楽保存会	広島県	富士神楽団		半田神社神楽舞保存会
福島県	杉沢愛宕神社三匹獅子保存会	徳島県	特定非営利活動法人赤松煙火保存会＊	富山県	八口諏訪社獅子舞保存会
群馬県	美茂呂町屋台囃子保存会	香川県	和田雨乞踊保存会	山梨県	大垣外獅子舞保存会
埼玉県	白久串人形芝居保存会	福岡県	上久原白山宮獅子舞保存会	岐阜県	美濃歌舞伎保存会
千葉県	旅名羯鼓舞保存会	佐賀県	自然と暮らしを考える研究会＊	静岡県	掛塚屋台囃子保存会
東京都	鹿島流獅子舞引田保存会	長崎県	権常寺浮立保存会	愛知県	六ツ師獅子舞保存会
	諏訪神社崇敬会	熊本県	竹迫観音祭保存会	三重県	生桑長松神社鏡餅奉納会
神奈川	川名屋台ばやし保存会		黒辺田野臼太鼓踊保存会	滋賀県	曾原獅子舞踊保存会
新潟県	天神林天満宮伶人会	鹿児島	塩田次郎 氏(薩摩琵琶製作)＊		篠田の花火保存会＊
富山県	田島自治会	沖縄県	黒島民俗芸能保存会	大阪府	だいがく保存会
福井県	宇波西神社神事芸能保存会	平成22年度助成(42)		奈良県	川西町保田自治会
山梨県	山梨岡神社舞子	青森県	二ツ森神楽芸能保存会	和歌山	ねんねこ祭保存会
長野県	NPO法人小谷山村留学育成会＊	岩手県	門中組振興会	島根県	岩野原獅子舞保存会
岐阜県	八幡神社祭礼運営委員会	宮城県	佐藤明彦 氏(堤人形製作)＊	岡山県	福石神楽団
静岡県	東光寺猿舞保存会	秋田県	冬師番楽保存会	広島県	名字獅子舞保存会
愛知県	中之切奉賛会	山形県	西袋獅子踊保存会		五日市芸能保存会
三重県	立神自治会	福島県	菅波伝統文化継承会	徳島県	後山からくり襖絵保存会
京都府	周枳民芸保存会	茨城県	あおき囃子連	香川県	流水灌頂法要保存会
大阪府	野崎第一地車保存会	栃木県	河井獅子舞保存会	福岡県	下町獅子山保存会
兵庫県	淡路人形浄瑠璃青年研究会	群馬県	木崎音頭保存会	長崎県	上原浮立保存会
奈良県	神波多神社獅子神楽保存会	埼玉県	三若会	熊本県	川島神楽連
島根県	出雲國奏楽錬成会	千葉県	柏合獅子舞保存会		都呂々獅子舞太鼓踊り保存会
広島県	大朝飾り牛保存会		熊野神社神楽保存会	宮崎県	入下神楽保存会
山口県	お手廻り保存会	東京都	上本郷獅子講中	鹿児島	前野田植唄民謡保存会
徳島県	大谷郷土文化保存会	新潟県	榎立踊り保存会	沖縄県	船浮民俗芸能保存会
香川県	七宝古流本村夫婦獅子舞保存会	富山県	川根谷内獅子保存会	平成21年度助成(42)	
愛媛県	佐方獅子保存会	石川県	福島青年親交会	北海道	大船南部神楽保存会
高知県	大和太刀踊保存会		小松尾小屋鷹保存会		

平成3年～令和7年 都道府県別伝統文化助成先一覧(6) *印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
埼玉県	赤沼民俗文化財保存会	熊本県	東浦臼太鼓踊り保存会	平成23年度助成(続き)	
	久長元耕地獅子舞保存会		大分県	福岡県	ぜんでこ踊り保存会
千葉県	道庭獅子連保存会	宮崎県	北原人形芝居保存会	佐賀県	平八月祭り保存会
東京都	八幡囃子保存会	鹿児島県	不土野芸能保存会	長崎県	南片白区浮立保存会
神奈川	台祭囃子保存会	沖縄県	土踊り保存会	熊本県	馬場本浮立保存会
新潟県	水沢伝統芸能保存会	平成25年度助成(42)		大分県	小屋川内獅子舞保存会
富山県	加茂神社神事伝承会	青森県	上川目神楽保存会	宮崎県	重岡岩戸神楽保存会
石川県	内灘町宮坂区		大石町内会	鹿児島県	花木地区郷土芸能あげ馬保存会
福井県	鈴鹿区太鼓保存会	岩手県	築館大乘神楽保存会	沖縄県	西上太鼓踊り保存会
山梨県	一之瀬高橋春駒保存会	宮城県	鳥屋ヶ崎八幡神社獅子舞保存会	平成24年度助成(54)	
長野県	根神社式三番叟保存会	秋田県	釜ヶ台番楽保存会	青森県	五戸えんぶり組
岐阜県	綾野第4自治会綾野祭囃子保存会	山形県	中獅子踊り保存会	岩手県	門中組振興会
愛知県	上名和祭りばやし保存会	福島県	和神神社太々神楽保存会	宮城県	片岸虎舞保存会
滋賀県	東大高祭禮保存会	茨城県	久保田おはやし保存会		山岸さんさ踊り保存会
	下笠参弥礼踊り保存会	栃木県	万町一丁目東自治会	小室契約会	浪板虎舞保存会
京都府	出雲風流花踊り保存会	群馬県	新田赤堀獅子舞保存会	磯草虎舞保存会	磯草虎舞保存会
大阪府	NPO法人丹波漆*	埼玉県	北本宿囃子連	大谷大漁唄い込み保存会	大谷大漁唄い込み保存会
	延喜式内社 岐尼神社	千葉県	関下囃子	長塩谷南部神楽保存会	長塩谷南部神楽保存会
和歌山	池田秀孝氏(紀州高野組子細工技術)*	東京都	檜原村春日神社御飼神事保存会	大室南部神楽保存会	大室南部神楽保存会
鳥取県	服部神社獅子舞保存会	新潟県	長沢祭典実行委員会	相川南部神楽保存会	相川南部神楽保存会
島根県	玉造調理師会	富山県	打出青壮年部	仙台堆朱*	仙台堆朱*
広島県	山波神楽団	石川県	串町町内会	秋田県	秋田万歳保存会
山口県	住吉神社御船謡保存会	福井県	闇見神社例祭神事保存会	山形県	大谷神楽保存会
徳島県	鳴門大風保存会	山梨県	新町お囃子保存会	福島県	川原田神楽保存会
香川県	石切唄保存会	岐阜県	NPO法人グリーンウッドワーク協会・竹部会*	新館太々神楽保存会	新館太々神楽保存会
愛媛県	掛木天満宮「牛鬼」保存会	愛知県	愛知・半田・板山万歳保存会	鹿島神社郷土芸能保存会	鹿島神社郷土芸能保存会
高知県	御田八幡宮秋の例祭保存会	三重県	東玉垣唐人踊り保存会	天命鑄物伝承保存会*	天命鑄物伝承保存会*
福岡県	柳川市立柳河小学校 →特別クラブ「子どもどろつくどん」	滋賀県	鍋冠祭保存会	白瀧神社太々神楽保存会	白瀧神社太々神楽保存会
佐賀県	川上鉦浮立保存会	大阪府	御領地車保存会	下小坂獅子舞保存会	下小坂獅子舞保存会
長崎県	東上面浮立保存会	兵庫県	羽淵獅子舞保存会	飯岡ばやし 日の出	飯岡ばやし 日の出
熊本県	熊本新町獅子保存会	奈良県	吐山太鼓踊り保存会	高井戸囃子保存会	高井戸囃子保存会
宮崎県	細江神楽保存会	和歌山	三船踊り保存会	大谷地和紙保存会*	大谷地和紙保存会*
鹿児島県	風田製糖組合*	島根県	美保神社神事奉賛会	蔵王稚児舞の会	蔵王稚児舞の会
	花尾太鼓踊り保存会	岡山県	佐方ひがさき踊り保存会	加茂神社神事伝承会	加茂神社神事伝承会
沖縄県	勢理客区	広島県	錦城神楽団	向栗崎悪魔祓い保存会	向栗崎悪魔祓い保存会
平成27年度助成(44)		山口県	滝坂神楽舞保存会	多賀区獅子保存会	多賀区獅子保存会
北海道	遠矢神楽舞保存会	徳島県	宿毛谷獅子舞保存会	中之倉神楽保存会	中之倉神楽保存会
青森県	甲地神楽保存会	愛媛県	NPO法人金栄会	湯原神社式三番保存会	湯原神社式三番保存会
岩手県	小通芸能保存会	高知県	四ツ白武士踊り会	河鹿神社賀喜踊り保存会	河鹿神社賀喜踊り保存会
宮城県	槻沢芸能保存会	福岡県	安武楽保存会	万足平を考える会*	万足平を考える会*
	葉茨神社三輪流神楽保存会	佐賀県	一般社団法人豊前小倉織研究会*	村木おまんと祭り保存会	村木おまんと祭り保存会
秋田県	坂之下番楽保存会		執行分浮立保存会	戸木東組かんこ踊り保存会	戸木東組かんこ踊り保存会
山形県	綱木獅子踊り保存会	長崎県	長崎明清楽保存会	小野町太鼓踊り保存会	小野町太鼓踊り保存会
茨城県	古内大杉ばやし保存会	熊本県	市房山神宮 里宮神社	深江菅細工保存会*	深江菅細工保存会*
栃木県	天下一関白流西組獅子舞保存会	宮崎県	長坂なれなれなすび踊り保存会	西町獅子舞保存会	西町獅子舞保存会
埼玉県	久那獅子舞保存会		中野神社神楽保存会	奈良県	田原地区伝統芸能保存会
千葉県	金鑽神楽永田組	鹿児島県	黒潮太鼓	堅田祭保存会	堅田祭保存会
	坂戸の踊躍念佛講	平成26年度助成(44)		大浦神社	大浦神社
東京都	大宮前郷土芸能保存会	北海道	美和権現獅子舞保存会	広島県	御調八幡宮花の踊り保存会
神奈川	多摩めかいの会*	青森県	目名神楽会	山口県	上野神楽舞保存会
	根府川寺山神社鹿島踊り保存会	岩手県	の組菱和会	徳島県	森藤獅子舞保存会
新潟県	昔かたり春よこい	宮城県	白浜自治会	香川県	安田おどり保存会
富山県	広野自治会	山形県	舟渡獅子踊り保存会	愛媛県	井原圭子氏(和紙用簀製作)*
石川県	神子原壮年団	福島県	松岡若連	高知県	泉川長者花鳥踊り保存会
長野県	日和山神社芸能保存会	栃木県	日光囃子保存会	福岡県	植木の三申踊り保存会
岐阜県	綾野第三自治会小獅子囃子保存会	群馬県	津久田人形操作伝承委員会	佐賀県	鳥海浮立保存会
愛知県	知立神社神楽保存会	埼玉県	今成地区山車・囃子保存会	長崎県	森山本村郷土芸能保存会
三重県	若宮八幡神社北村石取り祭車保存会				

平成3年～令和7年 都道府県別伝統文化助成先一覧(7) *印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
岩手県	大槌城山虎舞	佐賀県	宮野浮立保存会	平成27年度助成(続き)	
宮城県	宮刈田嶺神社附属神楽組	長崎県	横尾だんじり保存会	滋賀県	大野木豊年太鼓踊保存会
秋田県	鹿角紫根染・茜染研究会＊ 板戸番楽保存会	熊本県	東方組太鼓踊り保存会	京都府	玉田神社「宮座」森当座
山形県	致芳地区文化振興会	大分県	岡倉神楽保存会	大阪府	中垣内地車保存会
福島県	磐梯町本寺区 門鹿王子神社太々神楽保存会	宮崎県	酒谷地区むらおこし推進協議会	兵庫県	土師獅子舞保存会
栃木県	天下一関白神獅子舞保存会	鹿児島県	止上神社神舞保存会	奈良県	篠原おどり保存会
群馬県	八木原諏訪神社太々神楽舞子会	沖縄県	友寄獅子舞棒術保存会	和歌山県	亀の川念仏踊り保存会
埼玉県	金鑽神楽岡部組保存会	崎原克友 氏(八重山上布製作)＊		鳥取県	菖蒲神社麒麟獅子舞保存会
千葉県	賀茂神社民俗芸能保存会	平成29年度助成(43)		島根県	三谷神社獅子舞保存会
東京都	青梅市虎柏神社祭礼行事保存会	北海道	有明獅子舞有志の会	広島県	山根神楽団
新潟県	赤塚太々神楽保存会	青森県	国吉獅子踊保存会	山口県 徳島県 愛媛県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県	おおたけ手すき和紙保存会＊
福井県	田井野区・多由比神社伝統芸能保存会	岩手県	篠木神楽保存会		切山歌舞伎保存会
長野県	野辺町来迎念仏講	秋田県	平泉流細野念仏剣舞 脇本山車どんど保存会		池谷郷土芸能保存会
岐阜県	東座歌舞伎保存会	山形県	亀田大神楽神楽講		井原圭子 氏(伊予簀製作)＊
静岡県	東光寺猿舞保存会	福島県	岩根沢大々神楽保存会		永井獅子保存会
愛知県	藤江神社八ッ頭舞楽保存会	栃木県	荒獅子保存会		浮立・荒踊り保存会
三重県	田口念佛踊継承会	埼玉県	伊王野下町祭保存会		命婦の舞保存会
滋賀県	黒川花笠太鼓踊り保存会	千葉県	東不動院野神楽保存会		仲町の茶わん鉢保存会
和歌山県	広川町古典芸能保存会	東京都	古久喜獅子舞保存会		宇土市轟泉簡易水道組合＊
鳥取県	秋里伝統文化を保存する会	神奈川県	熊野神社神楽保存会		堅浦古典芸能保存会
島根県	三葛神楽保持者会	新潟県	清水ばやし保存会	神下俵踊り保存会	
山口県	豊原地区腰輪踊り保存会	石川県	野比中村虎踊り保存会	目手久民謡保存会	
徳島県	信正鉦踊り保存会	福井県	浦瀬町奏楽保存会	仲西獅子舞保存会	
香川県	櫃石ももて祭保存会	長野県	柴垣壮年団	平成28年度助成(43)	
愛媛県	天神花踊り保存会	岐阜県	津島区神楽保存会	北海道	寿都松前神楽保存会
高知県	佐喜浜八幡宮古式行事保存会	静岡県	小市神楽囃子保存会	青森県	入口青年会
福岡県	博多鉄製作技術保存会＊ 前田の盆踊保存会	愛知県	関市獅子舞保存会	岩手県	嘉瀬奴踊り保存会
佐賀県	下新ヶ江地区沖ノ島太鼓浮立保存会	三重県	岐阜和傘プロジェクト実行委員会＊	宮城県	遠野郷板澤しし踊り保存会
長崎県	正山八ノ川青年団	滋賀県	江浦伝統文化保存会	秋田県	赤谷神楽保存会
熊本県	清源寺神楽保存会	大阪府	出川町棒ノ手保存会	山形県	鳥海山小滝舞楽保存会
大分県	山香神楽保存会	和歌山県	大淀東区自治会	福島県	清川獅子神楽実行部会
宮崎県	比木神社神楽会	鳥取県	井之口太鼓踊保存会	栃木県	太田川梅若和讃唄念仏踊保存会
鹿児島県	竹田神社からくり保存会	島根県	大東市中垣内自治会	群馬県	梅田三匹獅子舞保存会
沖縄県	松原自治会	岡山県	太地町民芸保存会 寄水青年同志会	埼玉県	大沢獅子舞保存会
令和元年度助成(42)		広島県	波津神社獅子舞保存会	千葉県	鷺宮太々神楽保存会
青森県	八戸市島守小学校神楽クラブ	新潟県	深野神楽こども教室	埼玉県	栗生田囃子会
岩手県	八幡大神楽保存会	富山県	仕組踊り保存会 城扇	東京都	新久はやし保存会
宮城県	秋保神社神楽保存会	石川県	上河内獅子舞保存会	神奈川県	家之子獅子連郷土芸能保存会
秋田県	大湯大太鼓保存会	徳島県	徳地人形浄瑠璃保存会	東京都	森山はやし保存会
山形県	仙道番楽保存会	香川県	池谷神踊り保存会	神奈川	田村ばやし保存会
茨城県	鍋田念佛講保存会	福岡県	賀茂神社長床神事保存会	新潟県	小川連中
栃木県	古河神楽保存会	佐賀県	水田天満宮稚児風流保存会	富山県	岩瀬白山町曳山愛好会
栃木県	大神神社神楽保存会	長崎県	納富分浮立保存会	福井県	日吉青年会
群馬県	市祇園囃子保存会	熊本県	東浜町一組女相撲保存会	長野県	影山区
埼玉県	戸口囃子会	大分県	菊池市下出田区、植古閑区	愛知県	白山神社奉納雅楽舞踊保存会
武甲山御嶽神社里宮太々神楽保存会		宮崎県	三輪流白杵神楽保存会	三重県	牛蒡祭保存会
諏訪万作保存会		鹿児島県	麓輪太鼓踊り保存会	滋賀県	金居原太鼓踊り保存会
岩沼の獅子舞保存会		鹿児島	ナゴシドンのつなぎ手事業	京都府	福知山市佛性寺自治会
樫立太鼓会		沖縄県	コンシ-踊り保存会	兵庫県	熊野神社浄舞保存会
広野自治会			新里民俗芸能保存会	奈良県	龍口獅子舞保存会
川尻会 獅子舞響		伊是名区		和歌山	土生八幡神社「お頭保存会」
高浜七年祭保存会		平成30年度助成(43)		鳥取県	大和佐美命神社獅子舞保存会
小伏獅子舞保存会		北海道	砂川もちつき保存会	島根県	野石谷伝統芸能保存会
根神社式三番叟保存会			越中踊り子供保存会	広島県	下板木コミュニティー
杉山は清 氏(飛騨わらび製縄)＊			留萌岩戸神楽保存会	山口県	むつみ神楽保存会
伊豆島田区不動尊講		青森県	柏木町荒馬保存会	徳島県	東辻郷獅子舞牡丹連保存会
			八幡崎郷土芸能保存会	愛媛県	NPO法人姫だるまプロジェクト＊
		岩手県	善楽流獅子舞保存会	高知県	日高村太刀踊保存会
				福岡県	元岡祇園ばやし保存会

平成3年～令和7年 都道府県別伝統文化助成先一覧(8) *印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
栃木県 群馬県 埼玉県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川	三本木獅子舞保存会	熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県	永尾ちよぼくれ保存会	令和元年度助成(続き)	
	八幡原太々神楽保存会		柳別府太鼓踊り保存会	愛知県	勝幡おこわまつり保存会
	野々宮獅子舞保存会		宝楽保存会		下門祭礼保存会
	相野谷郷土芸能保存会		日南市泰平踊本町組保存会		鳥原歌舞伎愛好会
	代々木囃子保存会		大崎伝統芸能神舞保存会	三重県	五ヶ所浦区
	曾我別所寿獅子舞保存会		宮城ウンデーク保存会	滋賀県	古屋六斎念仏踊保存会
	大谷はやし連			大阪府	中佐備町会
	赤倉神楽保存会		北海道	兵庫県	下浜三番叟保存会
	広野自治会		青森県	奈良県	紅しで踊り保存会
	山梨県		米倉人形芝居保存会	鳥取県	逢東盆踊り保存会
長野県	下駒沢氏子保存会	島根県	土江子ども神楽団		
愛知県	羽場獅子舞保存会	岩手県	犬吠森念仏剣舞保存会	山口県	末田焼物の里保存会＊
	尾張旭市新居地区馬の塔保存会	宮城県	築館大乘神楽保存会	徳島県	七成会
	向山区神楽獅子保存会	秋田県	古式獅子舞保存会	愛媛県	下吾川獅子舞保存会
	足助宮町お囃子保存会		東長野ささら保存会	高知県	大谷花取踊保存会
	大荒比古神社奴振り保存会	山形県	釜ヶ台番楽保存会	福岡県	沼楽保存会
	平自治会	福島県	大谷獅子舞保存会	佐賀県	龍宿浦面浮立保存会
	お弓神事保存会	茨城県	芳賀須内青年会	長崎県	島原木綿織保存会＊
	戯瓢踊保存会	栃木県	東牛谷お囃子保存会		狩立オネオンデ保存会
	宅野神楽団	埼玉県	大神神社伶人保存会	大分県	玖珠神楽神社社
	岡山県	作州餅保存会＊	塚越囃子連	宮崎県	小川神楽保存会
広島県	津田神楽団	笹川神楽保存会	沖縄県	志多伯獅子舞棒術保存会	
山口県	北河内神楽舞保存会	東京都		令和2年度助成(42)	
徳島県	下津令大神楽保存会	神奈川	宮城野獅子舞保存会	青森県	塩釜神楽保存会
	姫田獅子舞保存会	新潟県	榎下町稚児舞保存会	岩手県	青笹町しし踊り保存会
	櫛木獅子舞保存会	富山県	広野自治会	宮城県	白石和紙 蔵富人＊
	認定NPO法人農村歌舞伎祇園座保存会	山梨県	向原下組道祖神御神木保存会		塩竈神楽保存会
	牛鬼保存会	長野県	和田神社御神楽芸能同志会	秋田県	上若郷土芸能保存会
	尾崎太刀踊り保存会	岐阜県	荻原神社秋祭り実行委員会	山形県	達磨寺田植踊り保存会
	竹の曲保存会	愛知県	荒川松阪踊り保存会	福島県	海老根伝統手漉和紙保存整備事業実行委員会＊
	江上神社風流保存会		大留下棒の手保存会	茨城県	女沼ささら保存会
	沖永区自治会	京都府	常滑市小倉囃子保存会	栃木県	尾出山神社関白流獅子舞保存会
	勝本祭り囃子保存会		河和山車保存会	群馬県	新井諏訪神社獅子舞保存会
熊本県	宮崎昭行 氏(木造和船製作)＊	奈良県	大住隼人舞保存会	埼玉県	金鑽神楽本庄組神楽保存会
	菊池市下出田区、植古閑区	和歌山	伊根町 亀島区	千葉県	家之子獅子連郷土芸能保存会
	市原町自治会(市原獅子舞保存会)		大宝寺六斎講	東京都	大戸囃子保存会
	宮崎県	島根県	紀州製竿組合＊	神奈川	相模人形芝居 前鳥座
	綾町唐人踊り保存会	広島県	出雲國大原神職神楽保存会	新潟県	関山神社仮山伏伝承会
	令和5年度助成(48)		宮之庄神楽団	富山県	稗田伝統文化保存会
	岩手県	行山流湧水鹿踊保存会	宗教法人 須佐神社	石川県	中央町中思会
		大ヶ生山伏神楽保存会	勝瑞獅子保存会	福井県	三国祭囃子 初香会
	秋田県	山田大神楽保存会	山本長刀踊保存会	長野県	中萱紫石会
		大森親山獅子大権現舞保存会	船戸花取踊り保存会	岐阜県	青墓大太鼓踊りを守る会
福島県	比立内獅子踊保存会比靖会	福岡県	今宿青木獅子舞保存会	愛知県	古布区古布獅子舞保存会
	前沢の女宝財踊保存会	佐賀県	戸杓浮立保存会		尾張旭市印場北部地区警固祭り保存会
	下柴獅子団	長崎県	高浜相撲協会	三重県	立岡虫送り保存会
	田倉三匹獅子保存会	大分県	立石楽継承活動応援隊	滋賀県	朝日豊年太鼓踊保存会
	栗生田囃子会		阿鹿野獅子保存会	大阪府	摂州地車囃子かざら
	地縁法人 上町会	鹿児島	土踊保存会	和歌山	根来塗曙山会＊
	佐倉囃子保存会	沖縄県	伊集の打花鼓保存会		顯國神社三面保存会
	藤野歌舞伎保存会	令和4年度助成(45)		島根県	出雲大社教神代神楽 西日登神楽社中
	前鳥神社囃子太鼓保存会	北海道	月浦獅子舞保存会	広島県	田熊神代神楽保存会
	新潟県	矢作里神楽保存会	岩手県	江刺家神楽保存会	山口県
富山県	高砂山願念坊祭り保存会	宮城県	中浜神楽保存会	徳島県	穴喰祇園祭お能保存会
石川県	御経塚青年会		佐沼踊伝承会	香川県	原獅子組
山梨県	小明見富士浅間神社太々神楽保存会	秋田県	新沢八幡神社獅子舞講	高知県	浮津西町鯨舟の唄保存会
岐阜県	玉太鼓踊り保存会	山形県	中山町川向金比羅樽流し保存会	福岡県	松会保存会
静岡県	島田鹿島踊保存会	福島県	横沢の麓山まつり保存会	佐賀県	米多浮立保存会
愛知県	東海市万歳保存会	茨城県	日立郷土芸能保存会	長崎県	長坂浮立保存会
	牟呂八幡宮神幸祭神事相撲保存会				

平成3年～令和7年 都道府県別伝統文化助成先一覧(9) *印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
岐阜県	上広瀬金蔵獅子保存会	滋賀県	第16区自治会	令和5年度助成(続き)	
	小屋名しょうけ保存会*		千本ゑんま堂大念佛狂言保存会	京都府	周枳民芸保存会三番組
静岡県	横岡八幡神社神楽保存会	京都府	初土俵入保存会	大阪府	鍛冶町町会
愛知県	印内祭礼保存会	大阪府	太町町内会		日置荘西町東部町会
	大池組		羽曳野市誉田西之口町会		釜室町会
滋賀県	大溝祭龍組曳山保存会		自然田第三自治会 東組		八田寺町町内会
京都府	伊根町 本庄上区		福町中地車会		大北町会
大阪府	片江青年会		中庄地車保存会		中尾生町会
	出屋敷町地車保存会		小塩町自治会		尾生町会
	仲之町地車保存会(仲之町世話人会)		東西片添町秋祭運営委員会		上代町内会
	東羽衣地車奉賛会		阿間河滝町会		尾井町町会
	狭山まつり保存会		上町町会		富秋町会
兵庫県	松原神社太鼓保存会		西大路町会	島根県	有福神楽保持者会
	かみや民藝店*	兵庫県	<柳>自分堂*		石見神楽保存会 久城社中
和歌山	平松獅子舞保存会	島根県	法花寺万歳保存会	広島県	三良坂町郷土芸能保存会
島根県	三谷神楽社中	岡山県	小森神楽保存会	山口県	住吉神社 御田植祭協賛会
広島県	呉市広小坪自治会	広島県	中田上之町魁組神楽保存会	香川県	十獅会
山口県	むつみ神楽保存会	山口県	阿刀神楽団	高知県	鵜来島地区
徳島県	木ノ内獅子舞保存会	徳島県	滝坂神楽舞保存会	福岡県	銀座子供山笠
香川県	垂水神社奴組保存会	香川県	阿波木偶箱まわし保存会		戸畑祇園鳥旛町子供山笠
愛媛県	古谷多伎獅子保存会	愛媛県	東かがわだんじり子供歌舞伎保存会		戸畑祇園元宮子供山笠
高知県	八代青年団	愛媛県	赤網代牛鬼保存会(酔牛鬼会)	佐賀県	蔵上町御田舞保存会
佐賀県	呼子大綱引振興会	高知県	三島神社		母ヶ浦面浮立保存会
長崎県	森山本村郷土芸能保存会	福岡県	木屋瀬宿場踊振興保存会		南川獅子保存会
	皿山人形浄瑠璃保存会		楠原踊保存会	熊本県	園田久氏*
熊本県	岩本神楽保存会	佐賀県	江福綾竹鉦浮立保存会		穴川夜神楽保存会
宮崎県	穂満坊あげ馬保存会	長崎県	特定非営利活動法人 長崎流鏝馬保存会	鹿児島	津貫中間豊祭太鼓踊保存会
鹿児島	伊崎田和紙保存会*	熊本県	栖本町郷土芸能保存会	沖縄県	喜名伝統芸能保存会
	伊作流鏝馬保存会	宮崎県	六日町ヨイマカ保存会	令和6年度助成(61)	
沖縄県	大兼久婦人会	鹿児島	高城町太鼓踊り保存会	北海道	望来獅子舞保存会
累計助成件数 1,518件		沖縄県	沖縄県豊見城市宇高安自治会	青森県	小川原神楽連中保存会
		令和7年度助成(57)			牛滝若者組
		北海道	下賀老獅子保存会	岩手県	向川原虎舞
			江差餅つき囃子保存会		浪板大神楽保存会
		青森県	羽幌町 加賀獅子保存会	宮城県	北上町女川法印神楽保存会
			百目木 神楽会	秋田県	新町若者会
		岩手県	白糠婦人会	山形県	山五十川古典芸能保存会
			宮手鹿踊保存会	福島県	涼ヶ岡八幡神社神楽保存会
		宮城県	白澤鹿子踊保存会		福田十二神楽保存会
			しろいしプロジェクト*		八雲神社
			真坂鹿踊保存会	茨城県	小幡ひょっとこ囃子保存会
		秋田県	金浦神楽保存会	栃木県	関谷子供囃子保存会
		山形県	吹浦田楽保存会	群馬県	千代田八木節保存会
		福島県	松川神楽保存会	埼玉県	西大輪獅子舞保存会
		茨城県	櫻塚おはやし保存会	千葉県	都町諏訪神社囃子会
		栃木県	長沼八幡宮永代太々神楽保存会	東京都	鈴木ばやし保存会
		群馬県	椿名神社太々神楽保存会	神奈川	若葉台囃子連
		埼玉県	長野ささら獅子舞保存会	福井県	宇波西神社神事芸能保存会
			下名栗諏訪神社獅子舞保存会	長野県	伺去神楽保存会
		千葉県	村上神楽保存会		瀬原田太々神楽保存会
		東京都	小野路のめかい 篠・竹細工伝統技能保存会*		川中島町四ツ屋区 中島神楽保存会
			柴町囃子連	岐阜県	有道しゃくし保存会*
		神奈川	曾我別所祭保存会		川上舟晴氏*
			菊名のあめや踊り保存会		白山比咩神社獅子舞保存会
		新潟県	若宮八幡宮御神楽保存会	愛知県	関川一町内会
		富山県	稗田伝統文化保存会		馬場区祭礼保存協議会
		石川県	本町三丁目獅子舞保存会	三重県	津市分部町唐人踊保存会
		福井県	馬鹿ばやし保存会		鹿海町自治会
		長野県	大豆島神楽保存会	滋賀県	荒井恵梨子氏*

財団案内

財団の目的

明治安田クオリティオブライフ文化財団（理事長：関口憲一）は、音楽における人材育成ならびに地域の伝統文化の保存維持、および後継者育成に対する助成などを行ない、もって国民生活の質的向上ならびにわが国文化の発展に寄与することを目的としています。

【財団の概要】

名 称	公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団 THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION
設 立	平成3年（1991年）6月10日
主務官庁	内閣府
基本財産	14億4,800万円（2025年3月末日現在）
事業内容	・ 音楽分野における若手芸術家の人材育成に対する助成 ・ 民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・ 芸術文化活動に関する調査研究、出版物の刊行
事業計画	○クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成に対する助成 ・ 海外における音楽研修に対する助成 ・ 国内音楽学生に対する奨学援助 ○民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・ 地域の民俗芸能（含、民俗行事、民俗音楽）の保存維持、後継者育成のための助成 ・ 地域の民俗技術（含、伝統的製作技術、衣食住に関わる生活技術、伝統工芸）の保存維持、後継者育成のための助成
事業成果	これまでの累計助成状況（2025年6月現在） ・ 音楽分野 630件 10億8,050万円 ・ 伝統文化分野 1,518件 7億5,147万円
出捐企業	明治安田生命保険相互会社